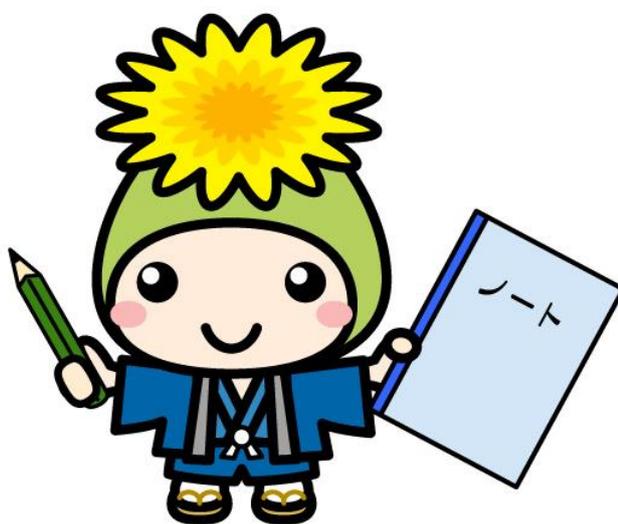


令和5年度

(令和4年度事業対象)

桶川市教育委員会

点検評価報告書



令和5年8月

桶川市教育委員会

あいさつ

発生から3年以上が経過した新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置付けが2類から5類へと移行し、社会は日常を取り戻してまいりました。

令和4年度を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の第7波及び第8波により、感染者数の急拡大がありました。その一方で感染症予防対策も緩和されました。

この点検評価報告書は、感染症対策の大きな転換点となりました令和4年度の事業を振り返り、学校教育や社会教育に関するそれぞれの取組について皆さまに分かりやすく読んでいただけるよう作成したものです。また、その内容の客観性を確保するために、2人の学識経験者からご意見をいただき、巻末に掲載しております。

さて、本市では令和4年度をもって「桶川市第五次総合振興計画」が終了し、新たに令和5年4月より「桶川市第六次総合計画」がスタートしました。この計画では桶川市の将来像として「学び豊かな 笑顔あふれる幸せ未来都市 おけがわ」を掲げています。

桶川市教育委員会では、この将来像を実現していくため、子ども達の創造性を育む教育や誰もが生涯にわたる学びを通じ、地域の自然や文化に触れ、個性や価値観を認め合いながら、生きがいのある豊かな人生を育むことができるよう、様々な取組を進めてまいります。

引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和5年8月

桶川市教育委員会

教育委員名簿（令和5年8月25日現在）

教育長	岩田 泉
教育長職務代理者	水村 実男
委員	青木 健志
委員	秋山 節子
委員	西永 和子
委員	吉村 史朗

学識経験者

上尾市立上尾小学校元校長

埼玉県公立小学校校長会事務局次長 升屋 好永

聖学院大学政治経済学部政治経済学科准教授

学長補佐・ボランティア活動支援センター所長 博士（教育学） 若原 幸範

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育委員会は、毎年、教育長に委任した事務を含め、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。この報告書は、同法に基づき、桶川市教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

点検及び評価の基本方針

(1) 目的

桶川市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、学識経験を有する方の知見を活用しながら今後の効果的な教育行政を推進するとともに、皆様への説明責任を果たしていくことを目的としてこの報告書を作成しました。

(2) 点検及び評価の対象と方法

この報告書では、「桶川市第五次総合振興計画後期基本計画」の施策の大綱2「生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる」に設定されている6つの「施策」を基に、別刊「桶川の教育」で示したとおり事業を体系化し、「事業実績」、「実績及び目標（値）に対する評価」、「令和5年度以降の取組方針」、「令和5年度の目標（値）」について、点検及び評価を実施しました。



※桶川市第五次総合振興計画 後期計画 施策の体系より抜粋

目 次

1 令和4年度桶川市教育委員会事業体系			1
2 教育委員会の事務に関する点検評価結果（点検評価シート）			
課(館)	第五次総合振興計画の施策	事業名	
教育総務課	学校教育の充実	入学準備金貸付事業	3
		小学校整備事業	4
		中学校整備事業	5
学校支援課 (教育総務課)	学校教育の充実	ICT教育推進事業	6
教育総務課 (学校支援課)	学校教育の充実	小・中学校給食業務	8
学校支援課	学校教育の充実	補助員配置事業	10
		学校図書館教育補助員配置事業	12
		英語指導助手配置事業	13
		教育相談事業	14
		いじめ防止推進事業	16
		中学校社会体験チャレンジ事業	17
		進路意識啓発事業（ふれあい講演会）	18
		ことばの教室事業	19
		桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業	20
		学校応援団推進事業	21
	教職員の資質・能力の向上推進事業	22	
	人権教育・啓発と平和の推進	学校教育における人権教育の推進事業	24
	学校教育の充実	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業	26
福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業		27	
小・中学校図書購入事業		28	
学務課 学校支援課	学校教育の充実	就学援助事業	29
学務課	学校教育の充実	学校運営協議会の推進事業	31
		教職員の管理業務事業	32
		教職員の資質・能力の向上推進事業	33

生涯学習・スポーツ推進課	就学前教育の支援・充実	P T Aリーダー研修会	34
		P T A家庭教育講演会	35
		「親の学習」講座	36
	青少年の健全な育成	20歳を祝う会	37
		放課後子供教室事業	38
		青少年健全育成事業	40
	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習情報の提供	42
		職員出前講座	43
		市民大学の開催	45
		文芸桶川発行	47
		パソコン講習とサポート事業	48
		生涯学習推進体制の整備	49
		学習ボランティア推進事業	51
人権教育・啓発と平和の推進	人権教育の推進	52	
文化財課	文化・芸術の振興・保存・継承	指定文化財保存管理交付金及び文化財保存事業費補助金交付事業	54
		民俗芸能保存事業交付金交付事業	56
		指定文化財調査事業	58
生涯学習・スポーツ推進課	生涯学習・生涯スポーツの充実	管理運営事業	60
		図書館業務推進事業	61
	生涯学習・生涯スポーツの充実	スポーツ指導者育成事業	62
		スポーツ団体への支援事業	63
		スポーツ施設維持管理事業	65
公民館	就学前教育の支援・充実	幼児・家庭教育セミナー事業	67
	生涯学習・生涯スポーツの充実	講座開催事業	68
		公民館業務運営事業	69
文化財課（歴史民俗資料館）	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習センター管理事業	70
	文化・芸術の振興・保存・継承	資料調査・収蔵事業	71
		教育普及事業	72
	生涯学習・生涯スポーツの充実	大規模改修事業	74
3 点検評価報告書に対する意見			75

1 令和4年度桶川市教育委員会事業体系

※「桶川の教育」より

基本理念 「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」

基本目標	基本事業	ページ
I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	① 学校教育への支援の充実	3, 29
	② 学校環境の整備・充実	4～6, 10, 12
	③ 学校の組織運営の改善	31～33
	④ 小・中学校9年間を見通した一貫性のある学校教育の推進	22
	⑤ 一人一人の確かな学力を育む教育の推進	13, 22
	⑥ 時代の変化に対応する教育の推進	6, 13
	⑦ 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進	17, 18
	⑧ 共生社会を支える特別支援教育の推進	19, 20
	⑨ 教職員の資質能力の向上	14, 22, 24
II 豊かな心の育成と人権意識の高揚	① 「桶川市人権教育基本方針」の具現化	52
	② 社会教育における人権教育の推進	52
	③ 学校教育における人権教育の推進	24
	④ 豊かな心を育む教育の推進	22, 61
	⑤ 心豊かな児童生徒の育成を目指す生徒指導の充実	14, 16
	⑥ いじめ・不登校の未然防止の推進	14, 16
III 健やかな躰(からだ)の育成	① 体力向上を目指した学校体育の充実	22
	② 食育の推進を通じた健康教育の充実	8, 22
	③ 家庭・地域と連携した安全教育・安全管理の推進	21
	④ 各種スポーツ団体への支援	63
	⑤ スポーツ・レクリエーション活動の普及	63

IV 家庭・地域の 教育力の向上	① 家庭教育の支援	34～36
	② 青少年健全育成の推進	40
	③ 地域・学校と連携した教育環境の整備	38
	④ 幼児・家庭教育セミナーの開催	67
	⑤ 学校応援団の充実	21
V 生涯にわたる 学びとスポーツ の支援	① 学習情報の提供と学習相談体制の充実	42, 48
	② 学習機会の整備・推進	43, 47, 52, 72
	③ ライフステージに応じた市民との協働による学習の推進	37, 45, 48, 51
	④ ボランティアの育成と連携	27, 51
	⑤ 生涯学習推進体制の整備	49
	⑥ スポーツ推進委員の育成	62
	⑦ スポーツ・レクリエーション指導者の育成	62
	⑧ スポーツ・レクリエーション施設の整備	65
	⑨ 多様な学習や活動の機会の充実	60, 61, 68, 69
	⑩ 図書館サービスの充実	60, 61
	⑪ 読書会等の活動の支援・育成	61
	⑫ 歴史民俗資料館事業の充実	71, 72
VI 伝統文化・芸 術の振興と文 化財の保存・ 活用の推進	① 文化財保護事業の推進	58, 71
	② 文化財保存事業の推進	54, 56
	③ 郷土文化伝承活動の推進	72
	④ 博学連携事業の推進	72

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	入学準備金貸付事業		
予算額	3,600,000円	決算額	1,600,000円

1 事業概要

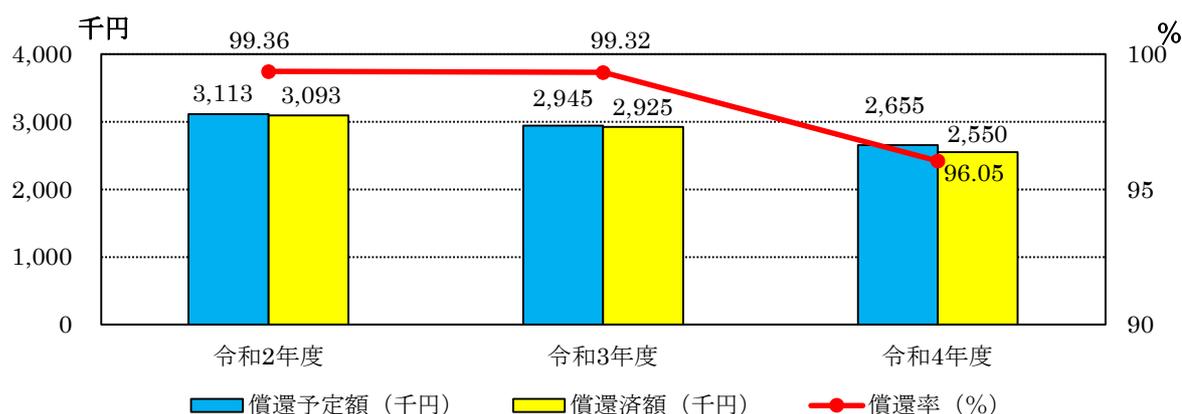
経済的に不安を抱える生徒の保護者に対して高等学校、大学、専門学校等への入学にかかる費用の貸付を行った。

2 事業実績

(1) 貸付状況

年度	貸付金額	件数	内訳		
R2	1,400,000円	5	高校 1、	専門学校 2、	大学 2
R3	2,200,000円	8	高校 2、	専門学校 3、	大学 3
R4	1,600,000円	6	高校 3、	専門学校 1、	大学 2

(2) 現年度償還分の状況



3 上記2に対する評価

- (1) 新たに市内の県立高校に案内を配付した。貸付の件数は前年度と同数であった。令和2年度以降の大きな変化は見られず国や県の支援策の拡充の影響と推測する。
- (2) 現年度償還分は、未納となった時点で催告通知等の速やかな対応を講じたが、前年の償還率からは3%減となった。

4 今後の取組方針

- (1) 制度内容や申請方法等について引き続き周知に努め、適切な支援を行う。
- (2) 現年度償還分の未納については、引き続き速やかな対応を行う。
- (3) 滞納繰越分については、訪問等により生活状況を把握し、完納に向けたきめ細やかな納付相談を行うとともに必要な調査を実施し、適切な処理を行う。

5 令和5年度の目標 (値)

- (1) ホームページ掲載や市立中学校及び市内の県立高校に周知を行う。
- (2) 現年度償還分の年度内完納並びに滞納繰越分の縮減を図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	小学校整備事業		
予算額	126,506,000円	決算額	111,618,784円
1 事業概要			
学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備した。			
2 事業実績			
(1) 体育館空調設備設計委託			
市内小学校（4校）の体育館空調設備整備のための設計委託を実施した。	・桶小、加小設計委託：7,700,000円	・川小、西小設計委託：7,370,000円	
(2) 給食室トイレ改修工事（地方創生地域支援事業）			
市内小学校（6校）の給食室の調理員専用トイレの改修工事を実施した。	・給食室トイレ改修工事：5,992,259円	（桶川小、加納小、桶川西小、桶川東小、日出谷小、朝日小）	
(3) 桶川東小学校用地取得事業			
桶川東小学校の学校用地を取得した。	・消耗品費：20,000円	・土地鑑定委託：479,600円	・学校用地取得費：83,285,556円
(4) 施設維持工事等			
学校の施設維持のため緊急性のあるものなど 随時工事等を実施した。（10件）	・漏水調査委託：154,000円	・工事費：6,617,369円	
3 上記2に対する評価			
(1) 昨今の記録的猛暑などに鑑みて、安全・安心・快適な教育環境を実現するため、小学校4校の体育館空調設備整備のための設計委託を実施した。			
(2) 感染症対策の実施や安全で衛生的な環境を確保するため、適切に施設維持工事を行うことができた。			
(3) 持続的かつ安定的な教育環境の整備を図るため、桶川東小学校の学校用地を取得した。			
(4) 緊急性や小学校の要望等を踏まえ、適切に施設維持工事等を進めることができた。			
4 今後の取組方針			
「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、安心・安全な教育環境を確保するとともに、「新しい時代の学び」に対応していくため、体育館の空調設備整備（令和5・6年度工事実施予定）など教育環境の向上と老朽化対策の一体的な整備を推進する。			
5 令和5年度の目標（値）			
「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の見直しを行うとともに、防災性や防犯性等の安全性を備えた安心感があり、児童が快適に学び、過ごせる教育環境を確保するため、体育館の空調設備整備など適切に施設維持工事等を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	中学校整備事業		
予算額	11,529,000円	決算額	9,767,309円
1 事業概要			
学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備した。			
2 事業実績			
(1) 給食室トイレ改修工事（地方創生地域支援事業）			
市内中学校（4校）の給食室の調理員用トイレ改修工事を実施した。		・給食室トイレ改修工事：4,258,641円 （桶川中、桶川東中、桶川西中、加納中）	
(2) 施設維持工事等			
学校の施設維持のため緊急性のあるものなど 随時工事等を実施した。（8件）		・漏水調査委託：209,000円 ・工事費：5,299,668円	
3 上記2に対する評価			
(1) 感染症対策の実施や安全で衛生的な環境を確保するため、適切に施設維持工事を行うことができた。			
(2) 緊急性や中学校の要望等を踏まえ、適切に施設維持工事等を進めることができた。			
4 今後の取組方針			
「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、安心・安全な教育環境を確保するとともに、「新しい時代の学び」に対応していくため、体育館の空調設備整備（令和7年度工事実施予定）など教育環境の向上と老朽化対策の一体的な整備を推進する。			
5 令和5年度の目標（値）			
「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の見直しを行うとともに、防災性や防犯性等の安全性を備えた安心感があり、児童が快適に学び、過ごせる教育環境を確保するため、体育館の空調設備整備など適切に施設維持工事等を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ICT教育推進事業		
予算額	135,599,000円	決算額	132,838,728円
1 事業概要			
学校におけるICT教育を推進するため、学校教育情報化推進委員会を中心に、ICT機器を効果的に活用した指導方法の研究を行った。			
2 事業実績			
(1) 学校教育情報化推進委員会（以下「推進委員会」）の運営 令和4年度においては、各校より推進委員1人を選出し、1人1台端末の効果的な活用や、課題の共有および課題への対応の検討を行い、市内全校で共通理解を図った。			
(2) ICT機器の活用と指導方法の工夫			
ア 1人1台端末の導入を受けて、指導者用デジタル教科書や大型提示装置の活用により、ICT機器を効果的に活用した授業を実践した。			
イ 1人1台端末活用に向け、埼玉県教育局ICT推進課長や文部科学省ICT活用教育アドバイザーによるICT機器活用研修などの研修を行った。			
ウ 教育委員会の情報共有サイトを作成し、市からの情報共有や授業で扱えるウェブサイト等を紹介することを行った。			
	実施内容	実施時期	
推進委員会	課題の共有、対応の検討等	5回実施 【4月、6月、9月、11月、2月】	
教職員の研修	ICT機器活用研修等	7回実施 【8月2回、9月、10月、1月2回、2月】	
3 上記2に対する評価			
(1) 授業での端末の効果的な活用、端末を家庭に持ち帰っての活用、オンライン授業の実施、不登校児童生徒への活用など、ICTを活用した各校の取組を紹介し合い、市内全体でICTの活用を推進することができた。			
(2) ア 学校訪問において、ICTを使った授業公開に対し、指導主事等が指導・助言を行うことで、全教員がICT機器を効果的に活用する指導方法を学ぶことができた。			
イ ICT機器活用研修を行うことで、新たな活用方法を見出すことや新しく導入したソフトなどの利用方法を学ぶことができた。			
ウ 市内の情報共有を行うことや教材の利用等に活用できた。			
4 今後の取組方針			
(1) 学校教育情報化推進委員会の運営			
ア 家庭に持ち帰った端末での学習等、課題の共有、解決に向けての協議			
イ 国や県の通知を考慮した、学校教育情報化の中・長期的計画の作成と実践			
(2) 教員のICT機器の活用と指導力等の向上			
ア ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」の授業・教材の共有			
イ 児童生徒の情報モラル教育の充実を目指した教員の指導力向上			
(3) ICT機器の効果的な活用			
ア 不登校児童生徒に対して行うオンライン授業の課題等を共有、解決に向けて協議			

- イ 学校運営研究委員会を活用した、業務改善・効率化に向けた協議
- ウ ICT支援員を活用し、児童生徒の端末の基本操作の支援、授業で使う教材の作成支援ができる体制の整備

5 令和5年度の目標（値）

- (1) 学校教育情報化推進委員会の実施（年4回）
- (2) 教員のICT機器の活用と指導力等の向上
 - ア 各校1学年1活用事例の保存
 - イ 研修の実施（年6回）
- (3) ICT機器の効果的な活用
 - ア 遠隔教育やオンライン学習の実施方法の検討及び試行
 - イ 学校運営研究委員会との連携による業務改善・効率化の検討及び試行
 - ウ ICT支援員対象研修の実施（年5回）

	実施内容	実施時期
学校教育情報化推進委員会	課題の共有、対応の検討等 学校教育情報化の中・長期的な計画の作成と実践	年4回開催予定【5、9、11、2月】
教職員の研修	ICT機器活用研修等	年6回開催予定【4月～3月】
ICT支援員の研修	端末の基本操作支援、教材の作成支援	年5回開催予定【5月～3月】
学校運営研究委員会	業務改善・効率化の検討・試行	年3回開催予定【7、11、2月】

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校給食業務		
予算額	509,549,000円	決算額	497,548,437円
1 事業概要			
安心・安全な給食を提供するため給食室の環境整備を行った。また、学校給食における献立作成・物資納入・調理までの一連の事業を計画し、安心・安全な給食を提供するとともに、食育の推進も図った。			
2 事業実績 ※(1)～(6)に記載の割合【%】は、各事業項目の決算額に占める割合			
(1) 桶川市学校給食運営事業 【0.7%】			
ア 学校給食費と年間実施回数 小学校：月4,000円（1食234円） 実施回数 年間189回 中学校：月4,550円（1食272円） 実施回数 年間184回			
イ 献立作成・食材料費支援金（支援金 3,348,142円） 桶川市学校給食運営委員会専門部会で、栄養教諭等で構成される献立検討会を毎月3回実施し、児童生徒の成長に必要な栄養価を第一に考えた献立作成に努めた。その中で地元食材の使用は、21.8%に留まった。（R4.11月調査） また、物価高騰の影響で食材料費が不足することが想定できたため、学校給食費食材料費支援金として1食あたり小学校10円、中学校12円の支援を実施した。			
ウ 桶川市学校給食運営委員会 専門部会（物資選定部会・献立作成部会・食育推進部会）についての報告を行い、日々の学校給食運営に関することの協議ができた。			
(2) 学校給食調理業務 学校給食調理業務委託（475,382,773円） 【95.5%】 給食物資の調達、物資納入業者との契約・指導、献立に基づく調理及び食器等の洗浄と適切な保管、給食室内の衛生管理等及び学校給食食材の支払いを（公財）桶川市施設管理公社に委託した。 （学校給食調理事業220,855,763円、食材料費254,527,010円）			
(3) 公会計に係る業務及び学校給食システム導入業務 【0.9%】 プロポーザル方式でシステム業者を選定し、令和5年度の導入に向け、随時、調整等を行った。また、新システムと連携できるように、既存の住民基本台帳、学齢簿、収納管理、口座管理システム等の各種改修を行い、公会計に係る業務を行った。 （公会計に係るシステム改修委託ほか 4,324,979円）			
(4) 学校給食用残牛乳の処分 学校給食用牛乳処分委託（2,164,800円） 【0.4%】			
(5) 食育の推進 【0%】 桶川小・桶川東小・朝日小の3校に栄養教諭を配置し、栄養教諭及び学校栄養職員を中心として全小・中学校で食育の推進事業を行った。			
(6) 給食室の環境整備 【2.5%】			
ア 学校給食用消耗品の購入（3,884,140円） 市内小学校の学校給食用食器（大椀）、ろ過蛇口、その他給食関連消耗品			
イ 調理作業備品等の更新（2,996,920円） 一槽フライヤー（1校）、球根皮剥機（3校）、野菜切機（2校）、その他給食関連備品			
ウ 調理作業備品等の修繕（1,652,552円） 回転釜（1件）、食器洗浄機（3件）、野菜切機（6件）、消毒保管庫（2件）、シンク（5件）、冷蔵（凍）庫（3件）その他給食関連備品及び諸経費			
エ 細菌検査・給食室に係る委託（3,794,131円） 検査委託、設備保守、殺虫駆除消毒殺鼠防除、設備洗浄、グリストラップ清掃			

3 上記2に対する評価

(1) 桶川市学校給食運営事業について

ア 学校給食費と年間実施回数

年間を通して、計画通り学校給食を実施することができた。また、学校給食費を市で管理することにより、会計の透明性をより一層向上させることができた。

イ 献立作成・食材料費支援金

必要な栄養価やバランスの取れたメニューを考えたいうえで、できる限りの食材を地元から確保する努力を行ったが、結果的に昨年度より数値は下がってしまった。しかし、物価高騰の影響による食材費の支援を実施したことで、学校給食の量や質を落とすことなく提供することができた。

ウ 学校給食運営委員会

年3回の学校給食運営委員会を開催することができた。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を実施しながら、学校給食に関することや給食費の徴収方法の意見交換を行うことができた。

(2) 学校給食調理業務について

安全を第一に配慮したうえで、学校給食調理業務委託を実施し、年間を通して、学校給食を提供できた。

ア (公財) 桶川市施設管理公社との調整を経て、通常为学校給食の他、学校休業や学級閉鎖等の対応についても円滑に行うことができた。

イ 支払業務など事務処理についても、学校、(公財) 桶川市施設管理公社との連絡を充実させることにより、円滑な運営ができた。

(3) 公会計に関する業務及び学校給食システム導入業務

システム導入に向けて、システム会社と定期的に打ち合わせをすることで、スケジュール通りに導入することができた。

(4) 学校給食用残牛乳の処分

学校給食用牛乳の処分量は、1日あたりに換算して4.0kg増加した。

前年以上に児童生徒及び教員の感染等により発注を止めることができない件数が増えたことが要因である。

	残量(kg)	1日あたり(kg)
令和2年度	7,240	43.1
令和3年度	9,200	48.7
令和4年度	9,960	52.7

(5) 食育の推進

食育の指導については、11月に「だしで味わう和食の日」の企画に参加し、日本食の基本でもある「だし」の良さを継承する目的とする献立を作成し食育を推進した。また、地元産食材への理解を深める活動、郷土食をはじめとするふるさとへの理解を深める活動を行うことができた。

(6) 調理作業機器等の更新

老朽化した給食施設備品を計画的に更新することができた。

4 今後の取組方針

(1) 学校給食運営上の諸課題について検討し、改善を図る。

(2) 安心・安全な食材の確保及び地産地消の促進を図る。

(3) 学校給食費滞納者に電話・訪問等を行い、滞納の解消に努める。

(4) 栄養教諭等と連携し、食育の授業の充実と質の向上を目指す。

(5) 学校給食費について、学校給食摂取基準を満たし、安心・安全でおいしい給食を維持するための費用について、研究・検討を行う。

5 令和5年度の目標(値)

(1) 学校給食費徴収管理事務の効率化を図るため、関係各課と連携し、新たに導入した給食費管理システムを使用し、徴収から管理までの事務等の確立を図る。

(2) 学校給食費滞納の解消に努め、当該年度については、年度内での徴収を行う。

(3) 地元産食材の割合を小・中学校平均で30%の目標値を達成できるよう調査をする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2022）		
事業名	補助員（会計年度任用職員）配置事業		
予算額	59,200,000円	決算額	58,093,988円

1 事業概要

児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図るため、各種補助員を小・中学校に配置した。

- (1) 教育指導補助員
全体指導をする教員に対して、児童生徒への個別指導等の補助を行った。
- (2) 日本語指導員
日本語が苦手な児童生徒の状況に応じて授業内での日本語理解の補助を行った。
- (3) 小学校理科支援員
実験の準備・片付け、準備室の整理整頓等、理科授業の補助を行った。
- (4) ICT支援員
教員が授業等でICT機器を活用する際の補助、児童生徒への対応を行った。

2 事業実績

- (1) 教育指導補助員 年間146日（1日5.5時間）
- (2) 日本語指導員 年間 55日（1日4時間）
- (3) 小学校理科支援員 A 年間 56日（1日4時間） 1校配置（桶川東小）
B 年間 28日（1日4時間） 2校配置
（桶川小、加納小、川田谷小、朝日小、桶川西小、日出谷小）
（※配置期間 R4年5月～R5年1月）
- (4) ICT支援員 A 年間144日（1日4時間） 1校配置（桶川東小）
B 年間 72日（1日4時間） 2校配置
（桶川小、加納小、川田谷小、朝日小、桶川西小、桶川東小、日出谷小、桶川中、桶川西中、桶川東中、加納中）
（※年間勤務日数以外に研修5日）

令和4年度市費対応による補助員数 単位：人（令和3年度人数）

	学校名	教育指導補助員	日本語指導員	小学校理科支援員	ICT支援員
1	桶川小学校	7 (7)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
2	加納小学校	6 (6)	—	1 (1)	1 (1)
3	川田谷小学校	3 (3)	—	1 (1)	1 (1)
4	桶川西小学校	8 (8)	2 (1)	1 (1)	1 (1)
5	桶川東小学校	6 (6)	—	1 (1)	1 (1)
6	日出谷小学校	5 (5)	0 (1)	1 (1)	1 (1)
7	朝日小学校	4 (4)	—	1 (1)	1 (1)
8	桶川中学校	4 (4)	—		1 (1)
9	桶川東中学校	3 (3)	1 (0)		1 (1)
10	桶川西中学校	3 (3)	—		1 (1)
11	加納中学校	3 (3)	—		1 (1)
	合計	52 (52)	4 (3)	7 (7)	11 (11)

3 上記2に対する評価

- (1) 児童生徒数に応じて配置人数を変更した。個別に対応することで、きめ細かな指導、わかる授業を支援することができた。諸活動において複数の目による安全確認ができた。通級指導教室において、指導を受ける児童生徒に対してきめ細かな支援を行うことができた。
- (2) 日本語指導が必要な児童生徒に積極的に関わることで、児童生徒の日本語対応能力が少しずつ向上し、安心して学校生活を送ることができたようだ。
- (3) 理科支援員が授業前の準備や授業後の片付けを率先して行ったことにより、理科担当教員が実験や作業を効率よく充実して行うことができた。準備室の片付けや備品管理、薬品管理簿の整理等の補助を行うことで、理科担当教員の負担を軽減することができた。
- (4) 児童生徒が授業で端末を使用する際、机間指導を行い、操作補助を行うことで教員が円滑に授業を進めることができた。
教員が端末を適切、かつ効果的に活用できるよう、支援することで、教員の活用技能を向上させることができた。

4 今後の取組方針

- (1) 1人1台端末の授業で効果的な活用を支援するため、ICT機器の活用スキルの習得を目指す。
- (2) 日本語指導が必要な児童生徒の状況を把握し、児童生徒のニーズに合った指導が行えるようにする。
- (3) 実験（理科）が多い単元での活用が図れるようにする。
- (4) 授業での効果的な活用が図られるように研修を実施し、スキルアップを図る。

5 令和5年度の目標(値)

- (1) 教育指導補助員に対して学校教育指導員による研修を年2回程実施する。
- (2) 学校と学務課との連携を密にし、日本語指導が必要な児童生徒の把握に努める。
- (3) 小学校の授業の実施に対するニーズを把握し、具体的な配置期間（5月～2月）を決定する。
- (4) ICT支援員に対して学校教育指導員による研修を年5回程実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	学校図書館教育補助員（会計年度任用職員）配置事業		
予算額	6,267,000円	決算額	6,176,640円

1 事業概要

学校図書館教育の充実、読書教育の充実を図るため、小・中学校に学校図書館教育補助員を配置した。

2 事業実績

市内全小・中学校に各1人、学校図書館教育補助員を配置した。

配置状況：年間112日（原則として週3日、1日5時間勤務）

(1) 児童生徒に対する読書への意識啓発

国語や総合的な学習の時間等を中心に学習の補助を行った。学校図書館教育主任等と連携して、児童生徒が興味関心をもつように、新刊図書の配置や、図書館内のレイアウトを工夫するなど、読書啓発を行い、図書館利用者や貸出の増加に取り組んだ。なお活動に関しては、感染防止のために、閲覧者の人数を制限するなどの工夫をした。

(2) 蔵書の修復や整理等の補助

令和3年度に導入した図書除菌機を活用し、感染防止に努めながら蔵書の修復や整理業務を行った。

(3) 研修の実施

学校図書館教育主任と共に学校図書館教育に係る研修会を実施し、学校図書館の環境整備の充実に努めた。各校の情報共有を中心に実施をした。

3 上記2に対する評価

(1) 児童生徒に対する読書への意識啓発

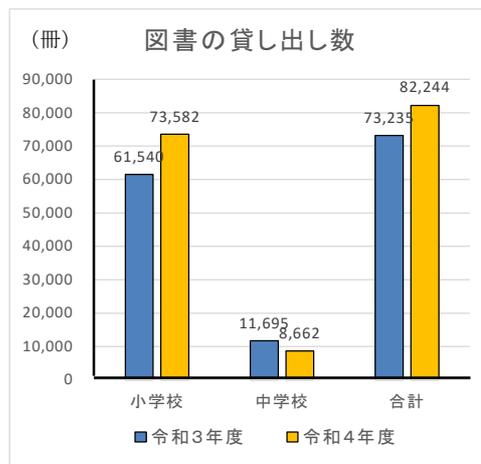
小・中学校の図書貸出数の合計は、令和3年度の73,235冊に対して、令和4年度は82,244冊であり、前年度と比較して、9,009冊増加させることができた。

(2) 蔵書の修復や整理等の補助

寄贈や交付金を活用し、新規に図書を購入することで、より蔵書数を増やすとともに、修復や整理等を計画的に行うことができた。また、学校図書館の環境づくりの中心となり、児童生徒が密にならないような動線の工夫や、消毒作業等を積極的に行った。

(3) 研修の実施

新型コロナウイルスへの対策を講じたうえで、学校図書館運営について、各学校の現状について情報共有することで、市内小・中学校間で共通認識をもつことができた。



4 今後の取組方針

(1) 児童生徒が学校図書館を最大限に活用できるよう、それぞれの学校の取組を共有し、より利用しやすい環境を整えていく。児童生徒が一人でも図書館に足を運び、1冊でも多く本を手にとれるような方策を研究し実施していく。

(2) 継続して学校図書館教育補助員の研修会を実施し、さらなる資質の向上を図る。

5 令和5年度の目標（値）

(1) 学校図書館の活用が進むように、図書の紹介や授業での活かし方など情報共有を図るなどして工夫し、貸出数がさらに伸びる（10%以上）ようにする。

(2) 学校図書館教育補助員の情報共有や資質の向上を目的として、研修会を実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる											
施 策	学校教育の充実（202）											
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）											
事業名	英語指導助手配置事業											
予算額	20,960,000円	決算額	20,959,180円									
1 事業概要	小学校に5人、中学校に2人の英語指導助手（ALT）を配置し、国際理解教育や外国語活動・英語教育の推進を図った。											
2 事業実績	<p>(1) 配置状況</p> <p>小学校 A：200日（桶川西小学校週5日） B：200日（桶川東小学校週5日） C：201日（桶川小学校 週4日：朝日小学校 週1日） D：197日（川田谷小学校週2日：日出谷小学校週3日） E：199日（朝日小学校 週2日：加納小学校 週3日）</p> <p>中学校 F：198日（桶川中学校、桶川西中学校）2週ずつ 4日（中学校の班大会時に小学校へ訪問） 10日（英語弁論スピーチ指導 桶川中学校、桶川西中学校） G：198日（桶川東中学校、加納中学校）2週ずつ 3日（中学校の班大会時に小学校へ訪問） 10日（英語弁論スピーチ指導 桶川東中学校、加納中学校）</p> <p>(2) 活動状況</p> <p>外国語、外国語活動、総合的な学習の時間等での指導補助について、英語科教員と連携して行った。新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮しながら、休み時間、清掃等の時間においてもALTと児童生徒が交流し、外国語や外国の文化・生活に触れる機会を設け、国際理解教育を推進した。</p>											
3 上記2に対する評価	<p>(1) 令和4年度もコロナ禍であったが、7人のALTを計画的に配置することができた。ALTの欠勤や遅刻早退の際も代講の依頼や勤務の振替をし、予定日数の勤務ができた。</p> <p>(2) 授業中常にマスクを着用するなど、話すことへの制約がある中ではあったものの、児童生徒の発達段階に応じた活動を取り入れることにより、外国語・英語に関する興味関心やコミュニケーションの意欲を維持することができた。</p> <p>令和4年度埼玉県学力・学習状況調査 中学英語（ ）内は令和3年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>領域</th> <th>桶川市平均正答率</th> <th>埼玉県平均正答率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>「聞くこと」領域 2年生</td> <td>68.6% (64.6%)</td> <td>67.3% (64.6%)</td> </tr> <tr> <td>「聞くこと」領域 3年生</td> <td>55.2% (65.4%)</td> <td>54.9% (61.0%)</td> </tr> </tbody> </table> <p>音声分野で、埼玉県と比較して高い結果が報告されており、ALTの配置によるコミュニケーション活動の多い授業展開の成果といえる。</p>			領域	桶川市平均正答率	埼玉県平均正答率	「聞くこと」領域 2年生	68.6% (64.6%)	67.3% (64.6%)	「聞くこと」領域 3年生	55.2% (65.4%)	54.9% (61.0%)
領域	桶川市平均正答率	埼玉県平均正答率										
「聞くこと」領域 2年生	68.6% (64.6%)	67.3% (64.6%)										
「聞くこと」領域 3年生	55.2% (65.4%)	54.9% (61.0%)										
4 今後の取組方針	<p>(1) 令和3年度より複数年の長期契約（3年）となったため、令和5年度も年度当初のALT不在の期間をなくし、4月より配置する。</p> <p>(2) 年4回のALTミーティングを実施し、英語教育に係る指導助手の資質向上と教員との連携強化に努める。</p> <p>(3) 令和5年度より、中学校のALTを英語検定対策（3級以上）の面接対策として活用する。</p>											
5 令和5年度の目標(値)	<p>(1) 小学校5人、中学校2人の年間200日の安定した配置とする。</p> <p>(2) 埼玉県学力・学習状況調査の「聞くこと」の領域で、全学年が、県の正答率を3.0%以上、上回るようにする。</p>											

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	教育相談事業		
予算額	17,982,000円	決算額	17,036,402円

1 事業概要

児童生徒それぞれの発達に即して人間関係、生活適応、自己理解の力を育んだ。児童生徒の社会的自立を目指し、相談体制を整え、学校、関係機関と連携をした。

2 事業実績

(1) 桶川市 相談件数（延べ件数）

	さわやか・スマイル相談員	スクールカウンセラー	教育センター相談員・カウンセラー
小学生	165	76	2
中学生	1,800	180	16
その他（保護者、職員等）	2,676	901	633
合計	4,641	1,157	651

〔関連事項 市内小・中学校でのいじめの認知件数及び不登校児童生徒数〕

いじめの認知件数	R3 小学校	213件	中学校	51件
	R4	623件		43件
不登校児童生徒数	R3 小学校	32人	中学校	64人
	R4	61人		74人

※いじめの認知件数については、積極的認知を行うことを生徒指導連絡会議等で周知を行ったため、増加した。中学校については積極的認知を行っているが、生徒の人間関係やコミュニケーションの取り方も身につく、増加の傾向は見られない。

※令和4年度から文部科学省が定める「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～『学校の新しい生活様式』～」の改訂により、令和3年度は感染症不安や発熱等を出席停止としていたものが欠席扱いとなったため、令和4年度の不登校児童生徒数は増加した。

(2) 相談体制

ア 市内11校に1人ずつ、相談員を配置した。（小学校 スマイル相談員/中学校 さわやか相談員）

イ スクールカウンセラーを小学校に1人、中学校に3人配置した。

小学校7校に年間11回ずつ勤務

中学校4校のうち2校には毎週1日、他2校には隔週で1日勤務

ウ 桶川市教育センターにカウンセラーを2人、相談員を3人配置した。

エ 学校支援課にスクールソーシャルワーカー（SSW）を配置した。

スクールソーシャルワーカーの支援の対象となった児童生徒数

小学生 7人 中学生 15人

3 上記2に対する評価

(1) 相談事業について、様々な立場から、児童生徒と関わりを持つことができた。

(2) ア 小学校全校にスマイル相談員を配置したことで、よりきめ細やかな対応や小学校から中学校への引継ぎができる体制を整えた。

イ 児童生徒及び保護者に対して個に応じた相談業務を行った。

ウ 児童生徒及び保護者の相談を受け、学級担任や養護教諭等との連携を迅速に図ることができた。

エ 課題を抱える児童生徒及び保護者の様々な背景や状況をふまえつつ、学校からの訪問要請に適宜対応することができた。学校や児童生徒及び保護者を関係機関につなぐことで支援を行うことができた。

4 今後の取組方針

(1) 教育相談事業の充実のために、資質の向上を目指す。

(2) 各相談機関と相談員の連携を密とする。相談体制のさらなる充実を目指し、各校の教育相談主任と相談員、教育センター相談員と指導員による情報共有及び研修会を実施する。

5 令和5年度の目標（値）

(1) 桶川市教育センターの拡充（桶川駅東側の地区に設置）について調査する。

(2) 不登校対策プロジェクトリーダー会議において、市内小・中学校生徒指導主任を交えた研修を実施する。

(3) 不登校児童生徒の保護者の連絡会を実施する。

※ スマイル相談員、さわやか相談員は、学校に配置の相談員。

※ スクールカウンセラー（SC）は、小学校、中学校における児童生徒の心理に関する支援に従事する。週に1度の勤務（単独校配置）、隔週の勤務（2校配置）の場合がある。

※ 教育センター相談員・カウンセラーは、教育センターで相談業務を行う。

※ スクールソーシャルワーカー（SSW）は、小学校中学校における児童生徒の福祉に関する支援に従事する。学校支援課に配置。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2021）		
事 業 名	いじめ防止推進事業		
予 算 額	1,083,000 円	決 算 額	1,068,986 円
1 事業概要			
いじめ防止等の施策推進のために、いじめ防止連絡協議会を開催し、市内におけるいじめ問題の現状の把握、委員の専門的知識及び経験から分析・検証を行うことでその対策を講じるいじめ対策委員会を開催した。			
2 事業実績			
(1) 各学校におけるいじめの早期発見といじめ解消を目指した取組の実施 ア 学校生活アンケートの実施（児童生徒：学期1回、保護者：年1回） イ 各学校における「いじめ防止基本方針」の見直しと読み合わせの実施 ウ 中学校における児童生徒主体のいじめへの意識高揚の取組を実施			
(2) いじめ防止連絡協議会の開催（14,100 円） ア 委 員…関係各課長、桶川市小・中学校長会長、埼玉県中央児童相談所長、桶川市 PTA 連合会長、上尾警察署生活安全課長、桶川市青少年問題協議会委員（合計12人） イ 開催日…第1回（7月22日）、第2回（2月17日） ウ 実 績…いじめ防止リーフレットの見直しと配付、関係各課へのいじめ対策担当者間連携への提案			
(3) いじめ対策委員会及びいじめ調査委員会の開催（861,900 円） 委 員…弁護士、臨床心理士、医師、大学教授等、教育長が必要と認めた者（合計5人）			
委員会名	開催回（○）及び開催日 ※ゴシックは同日開催		
ア：いじめ対策委員会	① 8月19日	② 11月24日	③ 2月 8日
イ：いじめ調査委員会	① 7月 1日	② 7月28日	③ 9月 2日
	④ 10月 7日	⑤ 10月21日	⑥ 11月24日
	⑦ 12月20日	⑧ 2月 8日	
※実 績…ア：学校におけるいじめ防止等のための対策についての審議 イ：いじめ重大事態の調査及び調査結果の検証・分析・対応方法の検討			
3 上記2に対する評価			
(1) いじめの積極的な認知と解消に向けた取組、解消後3か月の見届けを行うことができた。 ※令和5年3月現在 小・中学校いじめ認知件数663件中536件解消 解消率80.8%			
(2) いじめ防止リーフレットを全家庭及び教職員に配付し、啓発及び相談窓口の周知が図られた。			
(3) 重大事態に対する第三者委員会を事務局として適切に運営することができた。			
4 今後の取組方針			
(1) 引き続きいじめの早期発見に努め、組織的で迅速な初期対応について管理職を中心に指導する。			
(2) 各学校における児童生徒主体のいじめ防止への意識高揚の取組を定着させる。			
(3) 関係各課といじめ対策担当者間の情報共有を密にし、連携をより推進する。			
(4) いじめ重大事態についての調査を完結させる。委員の専門性を活かした視点から、いじめに対する組織的対応のありかたを協議する。			
5 令和5年度の目標（値）			
(1) 積極的ないじめの認知をもとに、「見逃しゼロ」を目指す。			
(2) 各小・中学校で、児童生徒主体のいじめ防止への意識高揚の取組を実施する。			
(3) 現在起きているいじめ重大事態について、事実関係を明らかにする。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事 業 名	中学生社会体験チャレンジ事業		
予 算 額	208,000 円	決 算 額	184,896 円
1 事業概要			
生徒が望ましい職業観や公平な社会性への理解を深めるとともに、進路指導・キャリア教育の充実を図るため、全中学校で生徒の職場体験を行った。			
2 事業実績			
学校名	実施日	事業所数	
加納中学校	7月5日から7月7日まで	34	
桶川西中学校	新型コロナウイルス感染防止のため受け入れをキャンセルした事業所が複数あり、中止とした。	/	
桶川東中学校	10月12日から14日まで		
桶川中学校	11月16日から18日まで	40	
3 上記2に対する評価			
3年ぶりに実施することができた。生徒、保護者、教員から体験的活動を行うことができたことについて好評を得た。また、職場体験を行うことで、職業観や働くことについて学ぶことができた。			
受け入れ事業所として福祉施設や医療関係、保育園などが少なく、業種に偏りがあった。また、桶川西中学校において、新型コロナウイルス感染の高まりから、受け入れのキャンセルをする事業所があり、何度か調整を行ったが中止とした。			
4 今後の取組方針			
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会（以下、「事業推進委員会」）や事業所等からの意見や情報を、さらなる事業の充実役に役立てていく。			
(2) 年2回の事業推進委員会において、桶川市PTA連合会、桶川市商工会、桶川ロータリークラブ、桶川市青年会議所等との連携を深め、市内及び近隣市の事業所に対して本事業への理解の促進をお願いし、新規受け入れ事業所を確保する。			
(3) ICT機器を活用し、中学校間の情報共有をスムーズに行う体制を整える。			
5 令和5年度の目標(値)			
(1) 4校終了後に、受け入れ事業所等に、アンケートを実施し翌年度に反映する。			
(2) 受け入れ事業所の新規開拓をする。			
(3) 社会体験チャレンジ事業情報共有サイトの設置と管理を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	進路意識啓発事業（ふれあい講演会）		
予算額	40,000円	決算額	40,000円
1 事業概要			
進路指導の一環として、生徒や保護者の進路意識を啓発するために「ふれあい講演会」を実施し、地域で活躍する職業人の講演を聞く機会を提供した。			
2 事業実績			
各中学校の実施内容（全生徒対象）			
学校名	講 師	実施日	内 容（講演・演題）
桶川中	元日本代表サッカー選手 落合 弘 氏	11月29日	何事にも準備することの大切さや、目標を達成するために努力することの大切さについて
桶川東中	パラアイスホッケー日本代表 堀江 航 氏	2月15日	「自分らしく生きるために」 今を生きる。自分で決断する。夢中になる。
桶川西中	お笑い芸人（卒業生） ななめ45° 氏	12月15日	学生時代や社会人になってからの体験談 生徒からの質疑応答
加納中	元校長 浅野 貞雄 氏	11月29日	「さわやかなそよ風（自主の風）に誘われて」 校訓「自主の風」に込められた思い
3 上記2に対する評価			
(1) 様々な経験をもつ様々な立場の人の講演をとおして、「生きること」について触れ、改めて進路について自分自身で考える契機とした。			
(2) 夢を実現するために努力することの大切さ、困難に対し前向きに取り組む姿を生徒一人一人に伝えることができた。			
(3) 生徒が「どう生きるか」について考え、進路意識の啓発・高揚を図ることができた。			
4 今後の取組方針			
桶川市生涯学習・スポーツ推進課、県教育委員会講師派遣制度やJICA等の団体等とも連携し、今後も継続していく。また、非常時にはオンラインでの講演を実施していく。			
5 令和5年度の目標(値)			
学校と連携し、講師の紹介等をしながら、市内4中学校で実施する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ことばの教室事業		
予算額	1,564,440円	決算額	1,564,440円

1 事業概要

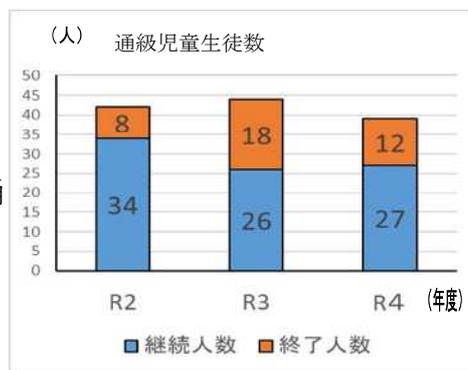
ことばの発達に課題のある児童生徒やその保護者に対して、専門的な指導や相談を行った。

2 事業実績

開設日数 71日 開設時間 午後1時～5時
 通級児童生徒数 小学生26人 中学生1人
 うち新規10人 終了12人

(1) 児童生徒への言語指導

- ア 「ことばやきこえ」の発達を支援するため、桶川西小学校内に桶川市ことばの教室を設置し、言語聴覚士による専門的な指導を行った。
- イ ことばを増やすための指導や正しい発音へと導く指導等、児童生徒一人一人の状態に応じた適切な個別指導を行った。
- ウ 保護者の希望により、児童生徒の言語指導への理解を共有し、保護者からの相談に対応した。



(2) 保護者の相談対応 12件（令和3年度13件）

通級前に保護者の不安や児童生徒の現状、ことばの教室を利用するかどうかも含めた今後の方向性についての相談を行った。（相談後は「ことばの教室への通級」もしくは、「相談のみで終了」となった。）

(3) 言語指導に係る学校との連携

対象となる児童生徒の在籍校における特別支援教育コーディネーター及び学級担任に対して指導の充実が図られるよう連絡会を実施した。また、初任者教員や教職員へことばの教室に関する研修を行った。

3 上記2に対する評価

- (1) 言語聴覚士による専門的な指導により、言葉の発音（構音、吃音、発達遅滞）等において困難を抱えている児童生徒に適切な指導や支援を行うことができた。随時入級や相談が出来、指導をすぐに開始できる体制であることは、指導の効果をより高めている。保護者と児童生徒の現状や通級での指導を共有することで「ことばの教室」での指導を充実させることができた。
- (2) 保護者の不安や児童生徒の現状について相談を受けた際、専門的な立場から助言をすることができた。学校や担任から伝えることが難しいケースも専門家として、教育センターや医療機関等へとコーディネートすることができた。
- (3) 在籍校との連絡会や初任者教員に対して研修することができた。連絡会については情報共有の機会を設け、児童生徒の理解やその後の指導の充実につなげることができた。また、初任者への研修や学校での教職員への研修を行うことで、ことばの発達に課題のある児童生徒への理解を深めることができた。

4 今後の取組方針

「ことばやきこえ」の発達に関する保護者や児童生徒等からの相談・指導に応えるために、継続していくとともに、教職員一人一人がことばの発達に課題のある児童生徒に対して、適切な対応ができるように、一層の理解促進に努める。

5 令和5年度の目標（値）

児童生徒への言語指導、初任者に対する研修、教職員との情報交換等について事業の実施を継続していく。ことばの発達に課題のある生徒への理解を深める機会として、学校に対して積極的に言語聴覚士を講師とした研修会を実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業		
予算額	50,000 円	決算額	48,500 円

1 事業概要

通常の学級に在籍する発達障害や情緒障害がある児童生徒に対し、発達障害・情緒障害の状態の改善または克服に向けた特別な指導及び必要な教育支援を行った。

2 事業実績

通級指導教室の利用状況（通級指導教室利用児童生徒数）

令和4年度 57人（桶川西小教室21人、加納小教室15人、中学校教室21人）

※中学校の設置教室は、桶川中学校教室、桶川東中学校教室、加納中学校教室

※中学校の利用者数は、桶川中学校教室12人（桶川中学校在籍4人、桶川西中学校在籍8人）、

桶川東中学校教室4人、加納中学校教室5人

(1) 個別指導及びグループ学習の実施

（消耗品費：48,500 円）

学习上または生活上の困難を改善・克服するための個別指導や少人数のグループ学習を実施した

(2) 在籍校訪問の実施

学期に1回通級指導教室担当教員が通級利用児童生徒の在籍校を訪問し、児童生徒の行動観察及び在籍校担任との情報交換を行った。



3 上記2に対する評価

(1) 個別指導において、学习上又は生活上の困難さを克服するための学習を行うことで、通常の学級の授業に参加する力や通常の学級に適応する力を向上させることができた。グループ学習については、3月に小学校6年生に対して中学校への不安を減らし、安心して進学できるようにするために、同じ通級指導教室を利用している児童が集まりグループで中学校について学ぶことができた。

(2) 学期に1回、在籍校訪問を行うことで通級利用児童生徒の在籍校での様子を把握し、担任と情報交換を行うことができた。そのことで、通級担当者、在籍校担任ともに、当該児童生徒の現状と課題に対して適切な指導が可能となった。

4 今後の取組方針

(1) 特別な配慮を必要とする児童生徒の数は増加傾向を示している。課題を抱える児童生徒に寄り添った通級指導教室の運営ができるよう環境整備を推進していく。

(2) 児童生徒の障害の状況に応じて効果的な指導ができるよう、教員の専門性の向上を推進していく。

(3) 通級指導教室の指導者を計画的に育成していく。

5 令和5年度の目標（値）

(1) 教育委員会及び各通級指導教室間での連携を図る機会を設け、効果的な体制の構築、環境整備の充実を目指す。

(2) 通級指導教室担当教員と通級児童生徒の在籍校教員の連携を深めるため、年度当初に通級指導教室説明を実施するとともに、学期に1回の在籍校訪問を実施する。

(3) 通級指導教室担当者で授業研究会を実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校応援団推進事業		
予算額	550,000円	決算額	550,000円

1 事業概要

学校が家庭や地域との連携を図り、学校運営を支援する体制づくりを推進した。

2 事業実績

市内全小・中学校に学校応援団が設置され、各校の計画に応じて、学校支援活動が行われた。令和4年度の人数は令和3年より減少し861人であった。

(1) 学校支援活動の内容

ア 小学校7校

(ア) 安心安全への支援：登下校の安全確保、防犯パトロール

(イ) 学習活動への支援：図書室の環境整備、本の読み聞かせ、掲示物の作成、学習の補助

(ウ) 環境整備への支援：ペンキ塗りや花壇・植木の剪定・除草等

イ 中学校4校

(ア) 安心安全への支援：通学路点検、不審者注意ののぼり設置

(イ) 環境整備への支援：学校の環境整備のための作業や花壇や植木の剪定・除草等

(2) 学校応援団事務局の活動

ア 学校応援団実行委員会

学校応援団事務局主催の学校応援団実行委員会を実施した。

イ 活動報告書の作成



3 上記2に対する評価

(1) 学校支援活動の内容

安心安全への支援では、登下校時の児童生徒を見守ることで安全の確保、事故防止につながった。また、不審者対応など、地域の防犯ができた。小学校における学習活動への支援では、新型コロナウイルス感染防止対策をしながら、活動方法を工夫し、児童と直接触れ合う学習補助等を行うことができた。特に川田谷小学校では学校応援団ボランティアをゲストティーチャーとして招き、凧作りの学習を行った。中学校における環境整備の支援では、感染対策を行った上で、生徒と一緒に除草作業を行った。

(2) 学校応援団事務局の活動

各学校応援団の取組を活動報告書にまとめ、市ホームページに掲載し、周知することができた。また、学校応援団実行委員会を開催し、コロナ禍での活動方法の工夫等について情報交換を行うことができた。

4 今後の取組方針

- (1) 学校応援団の役割を明確にし、学校との連絡体制を確立する。
- (2) 学校応援団実行委員会での意見交換や実績報告をより充実させる。
- (3) 各学校の活動が、学校応援団コーディネーターを中心に行われるように事業を推進する。

5 令和5年度の目標（値）

- (1) コミュニティ・スクールとの連携を図る。
- (2) 指導者を招いた研修を実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2023）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	2,443,000 円	決算額	2,441,000 円

1 事業概要

教職員の資質・能力の向上に向け、研修会の開催、学校訪問時の学習指導や学校課題研究への支援などを行った。

2 事業実績

(1) 市教育委員会主催研修会等 30,000 円（内訳 桶川市教育講演会 20,000 円、人権教育研修会 10,000 円）

項目	実施時期	内容	参加対象者
桶川市教育講演会	8月23日	「HSC（Highly Sensitive Child・非常に敏感な子）をはじめとする多様性への対応」	全教職員（オンライン）
初任者育成授業研究会	1学期、3学期	教員として授業実践を通しての資質の向上	初任者教員（9人）
体力向上推進研修会	7月5日 12月9日	コロナ禍における体育授業のあり方及び体力向上を目指した学習指導方法等の内容の充実・改善	体育主任等（13人）
学校保健研修会	7月6日、12月7日、3月9日	コロナ禍における学校の保健衛生管理について及び心身の健やかな発達を促進するための指導の在り方	養護教諭等（14人）
道徳教育研修会	11月16日	『主体的・対話的で深い学び』となる道徳科の授業展開の工夫	道徳主任・道徳教育推進教師（13人）
給食指導法研修会	9月7日	食育の充実に係る指導力向上	栄養教諭等（14人）
ICT機器活用研修会	8月4日、5日、 9月8日、10月18日、 1月24日、26日 2月16日	端末の活用及び情報モラル教育等について	情報教育担当教諭等（延べ127人）
生徒指導・教育相談中級研修会	8月1日、2日、3日	生徒指導上の諸課題、事例研究、面接演習	生徒指導担当者、教育相談担当（11人）
人権教育研修会 (担当者・管理職)	8月4日 3月1日	人権課題の理解、人権感覚・人権意識の高揚 人権教育を推進する上で管理職等の役割の認識を深め、実践力を向上させる	人権教育担当者（11人） 校長（11人）、主幹教諭（6人）

(2) 学校訪問（46,000 円 講師謝礼） 2,000 円×23 人

南部教育事務所の協力を得て、各学校を各1回訪問し、教育課程、学習指導、その他学校運営に係る専門的事項について指導・助言を行った。

(3) 学校課題研究（2,365,000 円） 研究1年目 130,000 円：4校 2年目 215,000 円：3校 3年目（本発表） 300,000 円：4校

小・中学校全校に交付金を交付し、研究を支援した。本発表校には、研究発表会の開催に至るまでの支援や全体会での指導講評を行った。また、各学校の学校課題研究に指導主事が訪問したり、外部から講師を招いたりして研究に係る指導・助言を行った。

【令和4年度 学校課題研究一覧】

学校名	研究領域	研究主題等	備考
桶川西小学校	教科(国語)	国語科における豊かな表現力の育成 ～思いや考えを伝え合う活動を通して～	研究2年目
加納小学校	教科(算数)	確かな学力を身につけ、わかる楽しさできる喜びを 味わい、生き生きと学ぶ児童の育成	研究2年目
川田谷小学校	道徳教育	主体的に判断し、よりよい人間関係を築くことので きる児童の育成～特別の教科 道徳を要として～	研究1年目
桶川東小学校	学習指導・ 学力向上	基礎・基本的な学力の確実な定着	研究1年目
日出谷小学校	学習指導・ 学力向上	教師がときめき 児童がきらめく 授業づくり	本発表
朝日小学校	特別活動	互いの思いを認め合い、自信をもって表現する朝日 っ子 ～気持ちを伝え合う力を育てる特別活動の工夫・改善～	本発表
桶川小学校	教科(算数)	自ら課題を見つけ、粘り強く学習に向かう児童の育成	研究1年目
桶川中学校	学習指導・ 学力向上	豊かに学び続ける生徒の育成 ～学力向上のための指導方法の工夫を通して～	研究1年目
桶川東中学校	学習指導・ 学力向上	「できた、わかった、楽しい」を味わわせる学習指 導の質的改善 ～主体的・対話的で深い学びを通して～	本発表
桶川西中学校	学習指導・ 学力向上	主体的・対話的で深い学びによる学習活動の充実 ～ICTの活用を取り入れた授業実践を通して～	研究2年目
加納中学校	道徳教育	対話を通してより良い生き方を考えることができ る生徒の育成	本発表

3 上記2に対する評価

- (1) 市教育委員会主催研修会等については、コロナ禍ではあったが、開催方法を工夫し数多くの研修会等を実施することができた。伝達が多い研修内容については、オンライン研修会の有効性が実証できてきた。議論し深めることが有効な内容については、集合型の研修が有効であった。各種研修会にて開催方法を工夫し、教職員の資質・能力の向上に資することができた。
- (2) 令和4年度の学校訪問は、専門性の高い教科等指導員や外部指導者を招へいし、質の高い指導を行うことで教職員の資質・能力の向上につなげることができた。授業や指導案について細やかにフィードバックし、教職員の実態に合った指導力向上の手立てを伝えることができた。
- (3) 学校課題研究については、各学校が工夫を凝らし、児童生徒の学力向上を目指した研究を行った。研究主題である「主体的・対話的で深い学び」を教職員が自ら実践している学校が多くみられ、指導力向上に努めることができた。本発表の学校でコロナ禍のため参集型ができない学校もあったが、研究の成果を紙面にて発表し、市内に成果を発表することができた。

4 今後の取組方針

- (1) 必要な研修内容・実施方法を精査し、効果的な研修を計画・実施する。
- (2) 指導主事等による指導・助言を行うことで、教職員の資質・能力の向上を図る。
- (3) 学校の全教職員が組織的に研究に取り組むことができるよう、3年間を見据えた支援を行う。

5 令和5年度の目標(値)

- (1) 講義形式とオンライン形式を融合し、効果的な研修会を行う。
- (2) 学校訪問に関しては、教職員の資質・能力の向上をめざして、工夫・改善しながら、内容をさらに充実させていく。
- (3) 発表時のみの関わりでなく、1年目、2年目において、研究課題にせまる具体的な手立てに対して指導・助言することで、研究の成果が高まるよう支援する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	学校教育における人権教育の推進事業		
予算額	221,000円	決算額	211,344円
1 事業概要			
学校の教育活動全体を通じて、主体的に人権課題を解決しようとする児童生徒を育成するため、教職員の研修を実施し、各学校の人権教育推進体制の充実を図った。			
2 事業実績			
(1) 各学校における人権教育推進体制の充実			
(2) 人権作文の募集と文集「かがやき」の発行（応募総数4,657件）			
(3) 教職員の研修			
ア 桶川市人権教育担当者研修会 令和4年8月4日			
① 「人権問題研修」のビデオ視聴（教職員向けに作成したもの）			
② 同和問題と部落差別解消法について			
③ 情報交換（人権作文の機会を活かす、その他）			
イ 桶川市小・中学校教職員等人権教育研修会 現地研修会 令和4年11月25日			
① 東松山市 正法寺（岩殿観音）へ行き、武州鼻緒騒動について住職の講話を聴いた。			
ウ 桶川市立小・中学校管理職等人権教育研修会 令和5年3月1日			
部落解放同盟埼玉県連合会北足立郡協議会女性部 事務局長 古河 邦子 氏による「差別の現実から学び、教育実践へ」をテーマとした講演			
3 上記2に対する評価			
(1) 各学校で人権教育の全体計画を作成し、各教科等の年間計画に位置付けることができた。また、「人権感覚育成プログラム」を年間計画に位置付け、実践することができた。いじめ問題、児童虐待について対応する組織を充実させ、学校教育での推進体制の充実を図ることができた。			
(2) 各学校で人権作文に取り組み、児童生徒の人権意識の高揚を図ることができた。人権作文集「かがやき」を発行し、全児童生徒に配付し、活用を促し、人権に対する意識を高めることができた。			
(3) 研修については、令和3年度に作成した研修DVDを活用した研修や3年ぶりに現地研修を行い、同和問題について理解を深めた。			
4 今後の取組方針			
(1) 学校における身近な人権問題、現在の社会を取り巻く人権問題に焦点をあて、教員の人権感覚を醸成し、学校における人権教育の推進を図る。			
(2) 人権作文集「かがやき」の発行を、身近な人権に目を向ける機会とし、意識を高める契機とする。			
(3) 同和問題、新型コロナウイルス感染に関する差別など各種人権課題について、教職員研修を通して理解を深める。特に経験の浅い教職員に対しての研修を計画的に行う。			

5 令和5年度の目標（値）

- (1) 学校における人権問題について、若い教員へのより一層の理解を推進するため、校内研修の充実が図れるよう、担当者会議を工夫する。
- (2) 人権作文集「かがやき」発行を継続し、児童生徒の人権意識の高揚を図る。
- (3) 令和4年度に実施した現地研修会を継続し、人権教育に関する理解を深める。管理職等人権教育研修会は、講義「差別の現実から学び、教育実践へ」を教頭、教務主任に対して行う。

※ 用語の説明

- ① 人権問題…人権が侵害される、または、人権が尊重されない状態のこと

- ② 人権課題…日本国内の主な人権課題（法務省ホームページより）
 - (1) 女性 (2) 子ども (3) 高齢者 (4) 障害のある人 (5) 同和問題
 - (6) アイヌの人々 (7) 外国人 (8) HIV感染者・ハンセン病患者等
 - (9) 刑を終えて出所した人 (10) 犯罪被害者
 - (11) インターネットによる人権侵害 (12) ホームレス
 - (13) 性的指向 (14) 性同一性障害者
 - (15) 北朝鮮当局によって拉致された被害者等 (16) 人身取引

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業		
予算額	0円	決算額	0円
1 事業概要			
児童生徒が主体的に環境問題について考え、環境を守ろうとする意識や態度を育成するための環境教育を推進した。			
2 事業実績			
<p>(1) 各学校において、環境教育の全体計画や年間指導計画を作成し、指導を行った。</p> <p>(2) 小学校の校外学習で利用する埼玉県自然学習センター等の事業を紹介するとともに、環境に関わる事業を紹介し環境教育の充実を図った。</p> <p>(3) 県の事業である「エコライフDAY」※の取組について、令和4年度は様式の配付をせず、クラウド上での回答に変更し、意識啓発を図った。</p>			
<p>※埼玉県では、2050年に目指すべき将来像として「カーボンニュートラルが実現し、気候変動に適応した持続可能な埼玉」を掲げ、2030年度における温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減することを目標としている。エコライフDAYは、簡単なチェックシートを利用して、広く県民がエコライフを体験する取組</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 児童生徒が密集しての観察・実験に制限がある中、感染防止対策をとりながら教育課程を工夫して環境教育を行い、児童生徒が、身近な環境について、課題意識をもつよう取り組むことができた。</p> <p>(2) 埼玉県自然学習センターとの連携した授業や、埼玉県環境教育アシスタントを活用した環境教育の授業については、新型コロナウイルス感染状況の影響により実施することができなかった。</p> <p>(3) 「エコライフDAY」の取組については、外出等の制限があり在宅の時間が増える中ではあったが、クラウド上での回答に変更し、継続して取組を推進することができた。</p>			
4 今後の取組方針			
総合的な学習の時間や社会科、理科の授業等における環境教育の実践をより充実できるよう、外部人材の活用も含め、教育委員会と連携を図ることで、脱炭素への意識を醸成していく。			
5 令和5年度の目標（値）			
<p>(1) 各学校において、SDGsの視点を含めた環境教育の全体計画や年間指導計画の作成を促す。</p> <p>(2) 桶川市教育研究会理科部会にて、埼玉県環境教育アシスタントや埼玉県自然学習センターを活用したごみ問題に関する授業提案を行い、各校において、授業実践をする。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事 業 名	福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業		
予 算 額	0 円	決 算 額	0 円
1 事業概要			
発達段階や地域の実態に応じたボランティア・福祉体験活動の推進を図った。			
2 事業実績			
(1) 各学校において、教科及び道德・特別活動・総合的な学習の時間、委員会活動等を活用し、ボランティア・福祉教育の全体計画を策定するよう助言した。			
(2) 例年行っている取組等			
ア 実施した取組			
○認知症サポーター講座 日出谷小学校 5年生 朝日小学校 4年生 桶川小学校 4年生 川田谷小学校 3・4年生			
○中学校社会体験チャレンジ事業における介護施設への職場体験 1施設			
イ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった取組			
○春のふれあいフェスタへの参加			
○桶川市社会福祉協議会主催のボランティア見本市への中学生の参加			
3 上記2に対する評価			
(1) 各学校における車いす体験等の福祉に関する学習、赤い羽根等の募金活動などを通して、児童生徒が発達段階に応じて、社会福祉への関心と理解を深めることができた。 また、ベルマーク、使用済みはがきの収集活動を行う学校もあり、ボランティア活動の推進を図ることができた。			
(2) 様々な福祉に関する行事やイベントが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から令和3年度同様中止や規模が縮小になり、体験的な活動をする機会を設けることが難しかった。しかし、少しずつ規制が緩和されて一部実施することができた。 唯一実施した認知症サポーター講座では、認知症とはどういうものか、認知症の人と接する時の心がまえ、認知症介護をしている人の気持ちを知るなど、児童の認知症に対する理解を深めることができた。			
4 今後の取組方針			
(1) これからの社会を見据えた福祉教育の計画・実践の指導・助言を行う。			
(2) 福祉体験のより一層の充実を目指し、学校に情報提供を行う。			
5 令和5年度の目標（値）			
(1) 各学校において、発達段階に応じた福祉教育の充実に向け、全体計画・年間計画の工夫・改善を行う。			
(2) 発達段階に応じたボランティア活動・福祉体験の一層の充実を図る。また、感染対策を行ったうえで、児童生徒の社会福祉への関心と理解を深めていけるように実施可能な取組の情報提供を積極的に行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校図書購入事業		
予算額	2,915,000円	決算額	2,910,192円

1 事業概要

児童生徒に対し、本を選んで読む経験や読書に親しむきっかけを与える学校図書館の図書購入を行った。

2 事業実績

小・中学校 2,915,000 円の予算を各学校に配当し、小学校で 2,050,631 円、中学校で 859,561 円の図書を購入した。

＜過去3年間の充足率の推移＞

	標準達成率 (%)		
	令和2年度	令和3年度	令和4年度
小学校全体	100.7	107.0	108.7
中学校全体	103.2	108.1	108.2

※公立義務教育諸学校の学級数に応じて学校図書館に整備すべき蔵書の標準として平成5年3月に文科省が定めた数値

＜令和4年度小・中学校別図書室蔵書数等＞

学校名	※学校図書館図書標準冊数 (A)	増加冊数 (購入、寄付等)	廃棄冊数	現有冊数 (B)	標準達成率 (C) (C) = (B) / (A)
全学校	117,040	2,143	1,841	126,979	108.5%
小学校全体	69,360	1,401	1,118	75,411	108.7%
中学校全体	47,680	742	723	51,568	108.2%
桶川小	10,960	209	99	12,528	114.3%
桶川西小	11,360	184	211	12,368	108.9%
加納小	8,760	131	36	8,762	100.0%
川田谷小	7,000	160	400	7,765	110.9%
桶川東小	12,160	266	0	12,282	101.0%
日出谷小	10,360	214	205	11,992	115.8%
朝日小	8,760	237	167	9,714	110.9%
桶川中	11,680	200	228	14,153	121.2%
桶川東中	11,680	138	90	12,347	105.7%
桶川西中	12,640	159	400	13,916	110.1%
加納中	11,680	245	5	11,152	95.5%

3 上記2に対する評価

図書標準達成率は全校平均値では 108.5% に達し、昨年度の 107.4% を上回った。全校で図書購入事業予算 99.8% 執行し、「学校図書館図書標準」の達成を目標に取り組むことができた。小学校 7 校、中学校 4 校の全校が昨年度の標準達成率を上回ることができた。

4 今後の取組方針

市内全小・中学校の学校図書館において、標準達成率 100% を目指す。

5 令和5年度の目標 (値)

現在の高い標準達成率を維持しつつ (全校平均値で達成率 108% 以上)、より一層の書籍の充実を図る。古くなった図書の修理や廃棄をしながら、多岐にわたる分野で児童生徒が読みたくなるような図書の購入を進め、図書館環境の整備を進める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実(202)		
基本事業	学校教育への支援の充実(2022)		
事業名	就学援助事業		
予算額	(学務課) 48,400,000円 (学校支援課) 228,000円	決算額	(学務課) 39,937,959円 (学校支援課) 0円

1 事業概要

- (1) 児童生徒の義務教育の機会均等のため、経済的に困難である保護者に対し、就学援助費を支給し、就学費用の援助を行った。特別支援教育の普及・奨励と入級児童生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支給し、就学費用の援助を行った。
- (2) 要保護、準要保護の認定がなされた世帯の児童生徒に対し、学校保健安全法で定められた疾病の医療費の援助体制を整えた。

2 事業実績 ()は令和3年度実績

(1) 令和4年度就学援助費等執行状況 [学務課]

	要保護	準要保護	学用品 (要・準要保護)	学校給食費 (準要保護)	新入学学用品費 (入学前)	前年度 新入学学用品費 (差額)	特別支援教育 就学援助費
小	2人 (2人)	247人 (248人)	7,928,088円 (5,541,469円)	9,561,288円 (9,680,877円)	23人(21人) 1,243,380円	21人 63,000円	36人(35人) 2,306,920円
中	4人 (0人)	148人 (163人)	8,257,171円 (4,144,325)	6,883,716円 (7,328,743円)	32人(48人) 1,920,000円	0人 0円	15人(11人) 1,774,396円

(2) 令和4年度医療費補助執行状況 [学校支援課]

	要保護	要保護 件数	準要保護	準要保護 件数	金額
小	0人(0人)	0件(0件)	0人(0人)	0件(0件)	0円
中	0人(0人)	0件(0件)	0人(0人)	0件(0件)	0円

3 上記2に対する評価

- (1) 子の就学にあたり、経済的な支援が必要な保護者に対し援助を行うとともに、新入学児童生徒学用品費の入学前支給を滞りなく実施し、申請者に寄り添った援助を行うことができた。市内全児童生徒の家庭への案内配付と併せ、広報、市HP等に掲載し、申請促進を図ることができた。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で給与が減少したり、失業したりした保護者を対象とすることを周知したことにより、保護者からの相談につながった。また、新型コロナウイルス感染症の影響を受けずに校外学習等を実施できたことから、執行額は増加した。
- (2) 医療費の支給については、対象者がいなかったことで申請もなく、補助を行っていない。

4 今後の取組方針

- (1) 社会状況の変化に柔軟に対応した支給を行えるように予算の確保を行う。また、新型コロナウイルス感染症の影響で収入が減少した家庭等からの申請が見込まれるため、適切に対応する。
- (2) 学校事務担当者の事務処理上の取扱いについて問題が生じないように、周知徹底を図るとともに、迅速かつ適正な事務処理を継続する。

5 令和5年度の目標(値)

援助が必要な保護者が申請しやすくなるように、申請の受付方法を見直し、適正で迅速な事務処理を継続する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校運営協議会の推進事業		
予算額	898,000円	決算額	764,600円
1 事業概要			
<p>地域とともにある学校づくりを推進するために、教育委員会が学校運営協議会委員を任命した。令和元年度から段階的に学校運営協議会の設置校数を増やし、令和3年度より市内全小・中学校に設置し、2年が経過した。</p>			
2 事業実績			
<p>児童生徒の健全な育成に関する様々な課題解決のために、学校・家庭・地域の代表が集まり、「熟議」と「協働」を行うための組織として「学校運営協議会」が市内全小・中学校に設置されている。</p> <p>これにより、これまでは校長が中心となり、学校が各組織から個別に支援を受けていたが、学校を支援してきた各組織同士がつながり「協働」することで、学校が抱える課題解決につなげている。</p> <p>委員数：107人 報酬（年額）542,700円（6,700円/人） 費用弁償 221,900円</p> <p>※報酬は学校職員22人除く。1年に満たない任期の場合は、12か月で除した金額。 開催回数：4回（2校）、5回（7校）、6回（2校は合同開催を含む）</p> <p>主なテーマ：子供の登下校の見守り 教職員の働き方改革 活発なあいさつ With コロナと教育活動 児童の交通安全について ICT環境の整備と活用 不審者対応講習 校訓について</p>			
※熟議…多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。「文部科学省 HP より」			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) コロナ禍における教育活動を、委員が参観することで、学校の教育活動と感染症防止対策の両立をどのように図るか、熟議することができた。</p> <p>(2) GIGAスクール構想として、教育活動におけるICT機器の活用について、熟議することができた。</p> <p>(3) 学校が目指す児童生徒像の実現に向け、多面的・多角的な考えや意見が出され、協議が深まった。</p> <p>(4) 市内全小・中学校が2年目を終え、学校運営協議会の運営方法が確立され、委員の貴重な意見が学校運営に反映されている。</p>			
4 今後の取組方針			
<p>(1) 市内全小・中学校連携のコミュニティ・スクールの活動等、効果的な取組について会議録を活用して情報提供を行っていく。</p> <p>(2) 学校運営協議会の設置による成果と課題を市内全小・中学校で共有していく。</p>			
5 令和5年度の目標(値)			
市内全小・中学校における活動や課題を共有し、より効果的な運営ができるよう、桶川市コミュニティ・スクール連絡協議会の会議を充実する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の管理業務事業		
予算額	1,117,000円	決算額	754,920円

1 事業概要

桶川市立小・中学校教職員の事故防止及び市費対応に係る臨時的任用教職員の配置

2 事業実績

(1) 教職員事故発生件数 (件)

体 罰	0
酒酔い運転及び酒気帯び運転での交通事故	0
わいせつ行為等（セクハラを含む）	0
その他・非違行為等	2

(2) 欠員補充に係る臨時的任用教職員の配置状況（県費発令までの期間）

	欠員補充者（人）	市費負担日数（日）	市費負担費用（円）
小 学 校	1	4	31,104
中 学 校	0	0	0
合 計	1	4	31,104

(3) 病休・産休・育休等に係る臨時的任用教員の配置状況

	病休者数(人) ※8日以上	産・育休者数 (人)	市費対応代替者数 (人)	市費負担 (日)	市費負担費用 (円)
小 学 校	0	2	2	10	93,960
中 学 校	1	2	3	82	629,856
合 計	1	4	5	92	723,816

3 上記2に対する評価

- (1) 教職員の不祥事根絶に向け、市内小・中学校において、不祥事根絶プログラムを活用した研修、学校教育指導員による研修等を実施し、職員の意識啓発を図れた。
- (2) 臨時的任用教職員を県費発令までの間、市費で補うことで児童生徒の指導に空白を作らないよう教職員を配置した。
- (3) 病休・産休・育休等については、取得しやすい環境整備に努めたが、代員の候補者がいない学校は、校内の別の職員にて対応した。

4 今後の取組方針

- (1) 教職員事故の根絶に向け、一人一人の心に染み入る事故防止に向けた研修に取り組みせるとともに、管理職による面談などを通して個々の教職員の把握に務めさせる。
- (2) 広報やHPでの募集、県や近隣市町教委等と連携し、代員候補者を確保する。
- (3) 「桶川市立学校教職員ストレスチェック」を実施し、教職員の心身の状況の的確な把握に努めるとともに、業務改善・負担軽減に向けた取組を推進する。

5 令和5年度の目標(値)

- (1) 不祥事根絶に向けた研修の工夫、多様化する児童生徒へ適切な対応ができるように、教職員の研修を実施する。
- (2) 桶川市の広報への年2回の掲載やHPへ情報を掲載するとともに、県、近隣市町教委との連携を図り、臨時的任用教職員の確保に努める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予 算 額	50,000 円	決 算 額	0 円
1 事業概要			
教職員の資質・能力の向上を図るため、人事評価や各種研修会を行った。			
2 事業実績			
(1) 教職員人事評価の実施			
(2) 研修会の開催			
ア 夏季学校経営・運営研究協議会（対象者：市内全小・中学校長、教頭、主幹教諭） →新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により中止した。 代わりとして校長・教頭を対象に「教職員不祥事根絶に向けて」というテーマで、現状や事例について南部教育事務所長による講話を実施。			
イ 臨時的任用教職員及び会計年度任用職員等への研修会の実施 ○臨時的任用教職員研修…教員としての心得、服務及び生徒指導に関して（3月） ○学校教育指導員による会場研修（教職員の事故防止、組織力の強化） 各校年3～4回実施。			
3 上記2に対する評価			
(1) 教職員人事評価の実施 評価者である校長・教頭が、自己評価シートに基づき計画的に教職員との面談（当初・中間・最終）及び授業観察を行った。学校運営参画の意識を高めるために、校長の学校経営方針と個々の教職員の目標を連鎖させることで、学校全体の教育力を向上させることができた。			
(2) 研修会の開催			
ア 校長・教頭を対象とした南部教育事務所長講話では、県が重点に置いている不祥事根絶にテーマを絞り、管理職の当事者意識を高めることにつながった。			
イ 3月に、翌年度採用臨時的任用教職員を対象に、服務及び生徒指導に関する研修を行うことで、教員としての使命感や実践的な指導力を高めた。 学校教育指導員による会場校研修では、実際の事例をもとにした実践的な研修を行うことで、教職員の自覚を高められるようにした。			
4 今後の取組方針			
(1) 人事評価制度を効果的に運用し、学校の教育力を高められるよう、情報提供と助言を行う。			
(2) 学校管理職のニーズを捉えたテーマ設定と、主体的な学びを取り入れた実践的な研修を計画・実施する。			
5 令和5年度の目標(値)			
(1) 人事評価制度を適切に運用し、公正公平な教職員の評価に努めるとともに学校の教育力向上と人材育成を実現する。			
(2) 「教職員個々に落とし込む一人一人の心に染み入る研修」と「管理職による見届け」を合言葉に、教職員事故根絶に向けた研修を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTAリーダー研修会		
予算額	0円	決算額	0円
1 事業概要			
小・中学校PTA役員等を対象に、各小・中学校PTA活動の促進及び家庭教育のあり方等について研修を実施した。			
2 事業実績			
令和4年12月6日（火）に、埼玉県立大学 教授 上原 美子 氏をお招きし、「ヤングケアラーについて」というテーマで講演をいただいた。			
ヤングケアラーの実態や埼玉県の現状、ヤングケアラーの支援等を中心に講話をいただいた。また、元ヤングケアラー 友田 智佳恵 氏の実体験に基づく話を伺うことでヤングケアラーについての理解を深めることができた。			
なお、総会と同時に開催をする予定であったが、構成団体が集まる形での総会は実施されなかったため、別日程で実施することとなった。			
※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から各校4人程度までの人数制限をして実施した。ワークショップ・質疑応答等は実施せず。			
	R2年度	R3年度	R4年度
参加者数	一人	35人	22人
※令和2年度は新型コロナ対応のため未実施			
3 上記2に対する評価			
ヤングケアラーの実態は様々であり、その環境や状況により、適切な見守りや人間関係の構築が必要で、学校・地域・家庭・行政等の関係機関が連携して支援に当たることが重要であるということが分かり、大変充実した研修となった。			
受講者のアンケートでは、「ヤングケアラーとはどのような状況にいる子どもなのかを知ることができた。」「家族として、友人として、学校として、それぞれ何ができるかを考える良いきっかけとなりました。」等の声が聞かれた。			
4 今後の取組方針			
(1) 子どもたちの健やかな成長を願い、健康で心豊かな家庭づくりを進めるため、関係機関の情報等も活用し、親の悩みに応えられるような研修内容、講師の選定などを行う。			
(2) 保護者が参加しやすい日程を検討し、参加者を増やす。			
(3) 講演内容等を十分検討し、興味関心に応じたテーマを設定し、参加者を募る。			
5 令和5年度の目標（値）			
保護者のニーズを把握するため、参加者アンケートを実施する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTA家庭教育講演会		
予算額	367,000円	決算額	207,500円
1 事業概要			
小・中・高校のPTAが連携し家庭教育の充実を図るため、桶川市PTA連合会と市内高等学校PTA・後援会との共催で、PTA家庭教育講演会を開催した。			
2 事業実績			
PTAべに花講演会			
開催日 令和5年1月14日(土)			
会 場 響の森 桶川市民ホール			
講 演 「思春期ブギ・反抗期と思春期のトリセツ」			
講師 育児漫画家・イラストレーター 高野 優 氏			
演 奏 桶川中学校 吹奏楽部			
合 唱 桶川西高等学校 合唱部			
展 示 桶川西高等学校 美術部 書道部 科学部			
	R2年度	R3年度	R4年度
参加者数	一人	345人	265人
満足度	一人	99%	96%
※満足度は参加者アンケート結果による			
歳出：会場使用料 105,200円 講師委託 100,000円 需用費 2,300円			
3 上記2に対する評価			
人気育児漫画家による講演は、アンケートで96%の参加者が「満足」と答えていた。また、桶川市PTA連合会と市内高等学校PTA・後援会が共催することで、中学生、高校生の部活動の作品展やステージ発表を、より幅広い人に披露する場を提供することができた。			
4 今後の取組方針			
(1) 家庭が子供の教育に対する責任を自覚し、本来果たすべき役割を見つめなおす機会をつくることを目的として、市内に小・中・高等学校がある強みを生かし、合同で実施することによって家庭、地域の教育への関心を高める。			
(2) 保護者のニーズに沿った内容を検討する。広報活動（広報・保護者向け便り等）を効果的に行う。			
(3) 今後の事業運営に関しては、運営に参加する各団体の意向を確認しながら、運営体制や内容を検討し、実施していく。			
5 令和5年度の目標（値）			
アンケートの結果から講演内容等のニーズを把握し、興味関心に応じたテーマを設定することで、令和4年度の満足度を上回るようにする。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	「親の学習」講座		
予算額	20,000円	決算額	0円

1 事業概要

より多くの保護者が子育てについて考え、親が親として成長する機会とするために、「親の学習」講座を行った。

2 事業実績

指導者 埼玉県家庭教育アドバイザー 弓削多美信 氏（県からの派遣により無償）
 テーマ 小・中学校入学を控えた子供を抱える保護者向けの家庭教育の在り方

学校名	対象者数 (人)	参加者数 (人)	参加率 (%)	満足度 (%)
桶川西小	120	109	90.83	98.89
加納小	50	45	90.00	100.00
川田谷小	40	41	102.50	91.67
桶川東小	130	126	96.92	93.33
日出谷小	80	74	92.50	100.00
朝日小	70	68	97.14	98.25
桶川小	90	90	100.00	91.49
小学校計	580	553	95.34	96.97
桶川中	150	150	100.00	96.85
桶川東中	130	160	123.08	98.21
桶川西中	170	150	88.24	100.00
加納中	130	108	83.08	96.97
中学校計	580	568	96.55	97.94

※対象者数
 各校の入学児童・生徒数の
 予定人数と同数としてい
 るため、1家庭から複数の
 参加があった場合等は、
 参加率が100%を超える。

※満足度
 参加者アンケート結果に
 よる。

3 上記2に対する評価

- (1) 実施日を入学前の健診や説明会の時期に合わせ、高い参加率を維持できた。
- (2) アンケート結果からも、子どもと接する上での心構え等について参考になったという意見が聞かれ、内容の満足度も高評価を得られた。

4 今後の取組方針

- (1) 小学校では就学時健診時、中学校では入学説明会前に講座を開催し、高い参加率の維持・向上を図るため、学校においては講座の時間設定等を工夫していく。
- (2) テーマや講座時間については、今後も必要に応じて検討、見直しを図る。

5 令和5年度の目標（値）

- (1) 参加率が令和4年度を上回るよう、講座開催の日時を各学校と調整して設定する。
- (2) 意見交流を行うワークショップやグループトーク等を取り入れるなど、アンケート結果を活用して保護者のニーズに沿った内容の講座を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	生きる力を育む活動の充実（2031）		
事業名	20歳を祝う会		
予算額	454,000円	決算額	378,183円

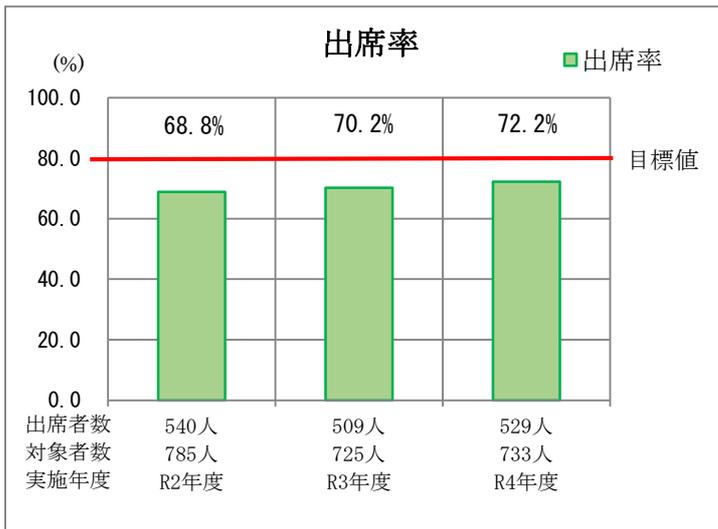
1 事業概要

国民の祝日に関する法律において、1月の第2月曜日が「成人の日」とされ、「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」と定義されていることから、新しい門出を共に祝福するとともに、将来の幸福を祈念するために20歳を祝う会（以下、「祝う会」）を実施した。

2 事業実績

開催日・会場：令和5年1月8日（日）桶川市民ホール
 テーマ：「Re(アールイー)～再び出会い、再び始まる～」

開催内容：思い出のスライド、オープニングイベント、アトラクションなど



【実行委員会】

広報による公募や卒業中学校から推薦された11人（公募2人、推薦9人）で構成され、祝う会の企画、案内状発送作業及び前日準備、当日の運営を主体的に行った。

歳出：需用費 155,353円、施設使用料 222,830円

3 上記2に対する評価

実行委員長主導で、積極的に意見を出し合い、円滑な祝う会を開催することができた。

感染症拡大防止対策を講じながらの2回目の開催となったが、前年度の反省を活かし、無事に祝う会を開催することができた。

4 今後の取組方針

周知方法や実施方法を検討し、出席率の向上を図る。

5 令和5年度の目標（値）

出席率80%以上とする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	放課後子供教室事業		
予算額	16,505,000円	決算額	16,036,870円

1 事業概要

子供たちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる安全かつ安心な居場所づくりを目的に、桶川市放課後子供教室を運営した。

2 事業実績

- (1) 国が推進している「新・放課後子ども総合プラン」に基づき、市内全小学校で放課後子供教室を実施した。
- (2) スタッフ（コーディネーター、教育活動推進員、安全管理員、協力員）及び運営委員会（校長、PTA、自治会及び行政関係者、コーディネーター）を設置した。

学校名	参加児童数	活動日数	スタッフ人数 【延べ人数】	開室年度
桶川東小学校	32人	88日	47人・12団体	H24
日出谷小学校	37人	116日	32人・9団体	H24
桶川西小学校	44人	123日	47人・11団体	H27
朝日小学校	48人	137日	53人・11団体	H27
桶川小学校	47人	132日	41人・9団体	H28
加納小学校	21人	134日	39人・7団体	H28
川田谷小学校	23人	114日	47人・6団体	H28
合計人数	252人	—	306人・65団体	—

（表は令和5年3月31日時点。「スタッフ人数」は登録者と団体数。）

※活動日数については、学校行事との兼ね合いや活動場所・スタッフの確保等、教室により状況が異なるため、各教室間で差が生じている。

歳出：報償費 13,382,600円、需用費 638,375円、役務費 467,175円
 使用料及び賃借料 1,548,720円

3 上記2に対する評価

- (1) 放課後における「児童の安心・安全な居場所を確保する」という国の趣旨に寄与する事業を行うことができた。
- (2) 令和3年度より活動日数を増やし、アフターコロナに合わせた活動内容を行ったことによりスタッフと参加児童、参加児童同士の信頼関係を深めることができた。また、学校側・保護者側の理解を深めることができた。
- (3) コロナ禍で参加を控えていた児童が参加をしやすいように、緊急連絡メール運用等の環境整備を行ったため、参加児童数が増えた。また、令和3年度は開室時期に学級閉鎖等があったが、令和4年度は学級閉鎖等も減少し、活動日数が増えた。

4 今後の取組方針

- (1) 参加児童の安心・安全な居場所となるよう、各学校のスタッフ・学校・放課後児童クラブとの調整を綿密に行う。
- (2) スタッフによる事業運営について、細かな事務の取扱い等ができるだけ全教室で統一したものになるよう、スタッフとの協議を行う。
- (3) 多くの児童やスタッフに参加してもらえるよう、周知等を行う。

5 令和5年度の目標（値）

- (1) 引き続き、各校の特色が出る放課後子供教室を実施する。
- (2) スタッフの個々の能力の向上を図るため研修会を実施する。
- (3) 参加児童数が令和4年度を上回るように周知を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事 業 名	青少年健全育成事業		
予 算 額	1,678,000 円	決 算 額	1,367,887 円

1 事業概要

青少年育成活動を推進するために、以下の3事業を行った。

- (1) 青少年問題協議会の開催
- (2) 青少年健全育成市民会議の推進
- (3) 青少年育成団体への支援

2 事業実績

(1) 青少年問題協議会の開催

第1回：令和4年7月12日（火）

- 内 容：①埼玉県青少年健全育成条例の一部改正について
 ②桶川市青少年健全育成指針の見直しについて
 ③桶川市いじめ防止連絡協議会委員選出

第2回：アンケートにて意見を聴取する形式で実施
 現行の指針内容について

(2) 青少年健全育成市民会議の推進

ア 総会を书面議決により開催

イ 「私たちの主張」作文コンクール及び「家庭の日」ポスターコンクールを実施

ウ 市民大会の開催

開催日：令和4年11月20日（日）

会 場：東公民館3階 大ホール

内 容：青少年育成功労賞、作文・ポスターコンクール入賞者の表彰 等

参加者数：142人

エ 市民会議広報「ひまわり」の発行（1月1日発行 広報同時配布）

オ 巡回指導の実施 延べ585人

巡回指導員研修会の開催

開催日：令和4年6月7日（火） 会 場：桶川市役所

講 師：日本ガーディアン・エンジェルズ 理事長 小田啓二氏

(3) 青少年関係団体への支援

各青少年関係団体や事業に、補助金等の交付や公共施設の利用の支援を行った。

件 名	金 額
桶川市青少年健全育成市民会議交付金	721,479 円
桶川市子ども会育成連絡協議会補助金	438,808 円
青少年相談員協議会補助金	154,000 円

3 上記2に対する評価

- (1) 青少年問題協議会では、桶川市青少年健全育成指針の方向性のほか、青少年を取り巻く環境における現状と課題について活発な意見交換を実施した。
- (2) 青少年健全育成市民会議から委嘱された巡回指導員に対する研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じて実施することができ、指導員から「良い経験となった」「多くの大人の目で、見守りや声かけをすることが大事だと感じた」等、大変好評であった。また、巡回指導の実施回数については、令和3年度とほぼ同水準となった。
- (3) 青少年育成に係る各団体に活動運営費の支援を行い、各団体とも新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら事業を実施した。

4 今後の取組方針

- (1) 青少年問題協議会については、桶川市青少年健全育成指針の見直しについて、それぞれの立場から意見を伺い、令和5年度中を目途に新しい指針を策定する。また、協議会で得られた情報を青少年健全育成市民会議の活動に反映し、更なる連携を深めていく。
- (2) 青少年健全育成市民会議については、心豊かでたくましい青少年の育成を目指し、地域体験活動や非行防止活動等の事業を実施する。
- (3) 青少年育成団体への支援については、積極的に事業を実施できるよう財政支援等を行う。

5 令和5年度の目標（値）

- (1) 青少年健全育成市民会議の事業について、青少年の心身の健やかな成長を図るため市民及び青少年関係諸機関・団体と協力し事業を推進する。
- (2) 巡回指導員の活動実績を、延べ590人以上とする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	生涯学習情報の提供		
予算額	26,000円	決算額	18,965円
1 事業概要	生涯学習に係る情報を広く市民に周知するため、情報紙を発行するとともに、ホームページ上にも各種情報の掲載を行った。		
2 事業実績	<p>生涯学習情報の提供：一般市民及び児童生徒向けに情報提供を行った。</p> <p>(1) 情報紙「生涯学習ガイド」の発行</p> <p>市内で開催される講座等の情報を掲載した情報紙「生涯学習ガイド」を年3回（4月470部、8月470部、12月470部）発行し、公民館等の公共施設に設置、市民の学習機会について周知を行った。また、同様の内容について、市ホームページへの掲載を行った。</p> <p>歳出：需用費 18,965円</p>		
3 上記2に対する評価	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により、市内で開催される講座や催し物については減少しているが、各課・施設の協力のもと、幅広く情報を収集し、市民及び児童生徒に対し情報提供を行うことができた。令和4年度から桶川市立集会所（桶川集会所、加納集会所）にも新たに設置を行い、利用者に対する周知に努めた。</p> <p>小・中学生向けの情報を合わせて掲載することで、幅広い年齢層を対象とした情報をまとめて周知することができた。</p>		
4 今後の取組方針	各課・施設と連携を図り、幅広く情報を収集し、より多くの講座の情報を発信していく。		
5 令和5年度の目標(値)	<p>(1) 生涯学習事業の情報提供について、各課・施設に協力を呼びかけるとともに、情報提供の機会を令和4年度よりも増やす。</p> <p>(2) 各課・施設に協力を呼びかけ、情報の充実を図り、利用者数の増加につなげる。</p>		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	職員出前講座		
予算額	0円	決算額	0円

1 事業概要

市民の学習環境の向上を図りつつ、市民と行政との交流を深めることを目的に、市職員が各部署の分掌事務に基づく学習メニューを用意し、市民の要請により講師（市職員）を派遣して講座を開催した。

2 事業実績

実施回数…23回、参加延べ人数…925人

No.	担当課	講座内容	実施月	利用団体	参加人数
1	高齢介護課	認知症サポーター養成講座	4月	団体	11人
2	秘書広報課	あなたにもできる広報紙づくり	5月	団体	23人
3	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	5月	団体	15人
4	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	5月	中学校	160人
5	高齢介護課	認知症サポーター養成講座	6月	団体	14人
6	環境センター	みんなでつくる循環型社会	6月	中学校	160人
7	産業観光課	べに花って、な・あ・に？	6月	中学校	160人
8	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	6月	中学校	112人
9	環境センター	みんなでつくる循環型社会	8月	団体	13人
10	高齢介護課	介護予防教室	10月	団体	14人
11	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	10月	団体	38人
12	自治振興課	悪徳商法にはだまされない	10月	団体	14人
13	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	11月	団体	6人
14	高齢介護課	認知症サポーター養成講座	11月	団体	20人
15	安心安全課	桶川の防災の現状について	11月	団体	13人
16	健康増進課	バランスのとれた食事のとり方	11月	団体	12人
17	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	1月	団体	29人
18	高齢介護課	認知症サポーター養成講座	1月	団体	19人
19	環境センター	みんなでつくる循環型社会	1月	団体	6人
20	人権男女共同参画課	男女共同参画社会ってなあに	1月	団体	20人
21	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	2月	団体	16人
22	健康増進課	生活習慣病予防について	3月	団体	30人
23	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	3月	団体	20人

3 上記2に対する評価

令和4年度は23件の講座を実施した。令和3年度の9件と比べると約2.6倍の実施件数となった。利用者の希望に合わせてテーマを設定する「特製メニュー」の利用もあった。

受講者アンケートは、「満足」と「やや満足」との回答を合わせると92.6%となり、高評価を得ることができた。

4 今後の取組方針

- (1) 問合せ時の市民ニーズに応じて、メニューに掲載されている講座以外でも柔軟に対応し、講座数を伸ばす。
- (2) 職員に掲示板などで職員出前講座について周知し、講座内容を増加・充実させる。
- (3) 職員出前講座の依頼団体へ満足度調査を実施する。

5 令和5年度の目標(値)

- (1) 広報やホームページに掲載し、広く周知するとともに、市内小・中学校や市内集会所などを通じてPRの強化を図る。
- (2) 新規の講座を開設し、実施講座数の増加につなげる。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事 業 名	市民大学の開催		
予 算 額	150,000 円	決 算 額	130,000 円

1 事業概要

多様な学習機会を提供するための、児童及び成人を対象とする事業を実施した。

- (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」
- (2) 「桶川市民大学」

2 事業実績

- (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設

上尾市・伊奈町・桶川市にある各小学校5～6年生が集い、なぜ？を追求する「はてな学」、郷土を知る「ふるさと学」、よりよく生きる「生き方学」の3つの分野を学ぶ、子どものための大学を開校実施した。

回	開催日	内 容	講 師
1	6/18	講義1 「『武士』とはどのような人たちだったのだろう —鎌倉武士を中心に—」	聖学院大学准教授 阿部 能久 氏
2	6/25	講義2 「身近な自然は知らないことがいっぱい！ —葉脈標本作りに挑戦—」	上尾市自然学習館 渡邊 明雄 氏
3	7/16	講義3 「百人一首をくずし字で読もう —院政期と鎌倉初期の和歌—」	聖学院大学 木下 綾子 氏
4	8/24	講義4 「やってみよう！子ども薬剤師 —調剤業務体験—」	日本薬科大学 油井 信明 氏 前田 智司 氏

歳出：子ども大学あげお・いな・おけがわ負担金 50,000 円

- (2) 「桶川市民大学」の開設（全9回）

大学名を変更して第3回目の開催となった。生涯学習の一環として、より豊かな教養を身につけ、自らの生きがいを実感していく場として、事業を実施した。

テーマ：「生き甲斐をもって生きる」

参加者数：38人 参加延人数：317人

歳出：講師等謝礼 80,000 円

回	開催日	内 容	講師など
1	8/18	開講式 講義1「桶川市長による講義」	市長 小野 克典
2	9/ 2	講義2「ニュースの舞台裏」	テレビ朝日広報局お客様フロント部 上野 敦史
3	9/15	講義3「足立 遠元」 講義4「安心・新鮮・食べごろ野菜の見分け方と賢い保存の仕方」	桶川市教育委員会文化財課 職員 東京農業大学 教授 高畑 健
4	10/ 6	講義5「災厄と古代文学～襲ってくる災厄をどう描いてきたか～」	聖学院大学 教授 渡邊 正人
5	10/20	講義6「健康と食生活～今日から実践！もっと健康に」	女子栄養大学 生涯学習講師 宮崎 美紀
6	11/17	見学 桶川市内歴史散歩 加納地区	桶川市ガイドボランティア
7	12/15	講義7「お屠蘇について知ろう！無病息災を祈る伝統の処方（講義・実習）」	日本薬科大学 講師 糸数 七重
8	1/12	講義8「iPS細胞と再生医療の世界」	立正大学 教授 溝口 元
9	1/16	講義9「桶川の歴史」 閉講式	桶川市歴史民俗資料館 職員

3 上記2に対する評価

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわ

コロナ禍ではあるが、感染症対策を講じながら全4回実施した。どの講義にも子どもたちが意欲をもって集中して取り組む様子が見られた。

参加児童へのアンケートでも、回答者全員が「とても満足」または「まあまあ満足」と回答しており、高評価を得られた。(受講者40人中38人回収)

(2) 桶川市民大学

コロナ禍ではあるが、応募定員を限定し、感染症対策を講じながら開講式から閉講式まで全9回実施した。制限のある中での講義となったが、過去のアンケート結果を参考に講義内容を設定し、学習機会の提供を行うことができた。

参加者へのアンケートでも、「とてもよかった」と「よかった」を合わせると71%となり、令和3年度とほぼ同水準の評価を得られた。(受講者38人中36人回収)

4 今後の取組方針

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわは、引き続き子ども達に意欲をもって取り組んでもらえるよう、他市町や教育機関と連携し、環境作りを行う。

(2) 桶川市民大学は、今後も受講者の期待に応えるよう大学等と連絡を取りながら講義内容の充実を図る。

5 令和5年度の目標(値)

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわについては、他市町や教育機関と連携し、参加者の満足度の向上につながるよう、環境作りを行う。

(2) 桶川市民大学については、アンケート結果等を参考にしながら、参加者の満足度が令和4年度を上回るような講座内容を設定する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	文芸桶川発行		
予算額	426,000円	決算額	425,160円

1 事業概要

文芸活動を通じて豊かな人間性を養い、市民文化の創造と地域文化の普及向上に資することを目的として「文芸桶川第43号」を発行した。

2 事業実績

(1) 発行部数等

- ア 発行部数：270部
- イ 無償配布部数：221部（執筆者、市内公共施設、学校等）
- ウ 有償頒布部数：22部（頒布価格：1冊1,000円 一般部門の応募料：500円）

(2) 編集委員会

文化団体連合会文学会（2人）、図書館実作協議会・俳句連盟・短歌関係団体・教育研究会（各1人）から選ばれた6人の委員による編集委員会を設置し、編集及び校正等を行った。

(3) 部門ごとの掲載作品分野および掲載作品数（掲載者数）

- ア 一般部門は応募作品全て掲載した。
小説3編（3人）、随筆8編（8人）、詩3編（3人）、短歌65首（13人）
俳句150句（30人）
- イ ジュニア部門は応募197作品から選考し99作品を掲載した。（扉絵を含む）
小説8編（8人）、詩1編（1人）、短歌17首（17人）、俳句65句（65人）
挿絵8点（8人）

	R2年度	R3年度	R4年度
作品数	360点	317点	328点
応募者数	166人	209人	254人
（うち一般）	64人	63人	57人
（ジュニア）	102人	146人	197人

歳出：印刷製本費 380,160円、編集委員謝礼 45,000円

3 上記2に対する評価

一般部門の応募は令和3年度よりも減少したが、中学校の協力もあり、ジュニア部門に多数の応募作品があったため、全体の応募件数では令和3年度を上回った。

4 今後の取組方針

- (1) 表紙絵、中扉絵、挿絵は、編集委員会で作品制作者を探す。
- (2) 一般の部の応募を増やすため、市内の高等学校へ応募の案内をする。

5 令和5年度の目標(値)

高校生が応募しやすいように、募集年齢を見直すとともに、チラシ等での周知により、一般の部の応募者を増やし、70人以上にする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	パソコン講習とサポート事業		
予算額	28,000円	決算額	8,400円
1 事業概要			
視覚障害者からのパソコンの疑問や相談に応じる「視覚障害者向けパソコン相談会」を実施した。また、パソコン技術の向上を目的として、ボランティア団体である桶川ITネットとの共催事業で、「パソコン講座」及び「パソコンサポートセンター」を実施した。			
2 事業実績			
(1) 視覚障害者向けの疑問や相談に応じるパソコン相談会 毎月第2・第4金曜日に実施した。 (開催：10回 延べ参加者数：14人)			
歳出：講師等謝礼 8,400円			
(2) パソコン講習			
講座名		受講者数（定員）	
初心者講座		10人（10人）	
初めてのインターネット講座（2コース）		20人（各回10人、計20人）	
ワード基礎講座		13人（13人）	
エクセル基礎講座（2コース）		19人（11人、8人、計19人）	
合計		62人（62人）	
(3) パソコンサポートセンター 毎週金曜日に実施した。（実施：25回 延べ参加者数：113人）			
※令和4年10月からは、所管事務を見直し、パソコン講習、及びパソコンサポートセンター業務を公民館による事業とした。			
3 上記2に対する評価			
新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、1コースの定員を10人程度に減らし、受講者が安心して受講ができるように、はじめてのインターネット講座・ワード基礎講座・エクセル基礎講座において、コース数を増やして開講した。			
4 今後の取組方針			
桶川ITネットと連携を図りながら、新型コロナウイルス感染症拡大防止の措置を講じ、参加者のニーズに応じたサポート事業を行っていく。			
5 令和5年度の目標(値)			
視覚障害者向けパソコン講座は、パソコンサポートセンターと一体化し、相談を受けられる体制を継続する。また、新たにスマートフォン相談会などの身近なデジタル機器に対するサポート事業を行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	生涯学習推進体制の整備		
予算額	578,000円	決算額	359,996円

1 事業概要

生涯学習推進のため、(1)及び(2)の会議を開催し、(3)の研修会を開催することにより、市内の生涯学習・社会教育の現状と課題について意見を聴取した。(4)社会教育指導員を設置することで社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成に寄与した。

2 事業実績

(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催

第1回 令和4年6月27日（月）

内 容：①令和3年度の主な生涯学習推進事業報告について
②令和4年度の主な生涯学習推進事業計画について

第2回 中止

(2) 桶川市社会教育委員会会議の開催

第1回 令和4年5月20日（金）

内 容：①令和3年度生涯学習に関する主な事業報告について
②令和4年度生涯学習に関する事業計画について
③令和3年度桶川市社会教育委員会会議活動報告及び令和4年度社会教育委員会会議活動計画について
④令和4年度社会教育関係補助金・交付金について

第2回 令和4年8月16日（火）

内 容：①環境センター見学
②出前講座「みんなで作る循環型社会」

第3回 令和4年11月15日（火）

内 容：①市役所防災倉庫見学
②出前講座「桶川市の防災施策について」

第4回 令和5年3月27日（月）

内 容：①会議計画について
②報告書について

(3) 社会教育関係委員合同研修会の開催

開催日：令和5年3月27日（月）

内 容：講演会「自分と世界を変える学びー聖学院大学のSDGsへの取り組み」

講師：若原幸範（聖学院大学政治経済学部准教授）

(4) 社会教育指導員の設置

社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成のため、2名を雇用した。主に、桶川市PTA連合会の事務局、桶川市民大学やふれあい学級の事業を担当した。

歳出：報酬及び報償費 321,000 円、費用弁償 18,900 円、需用費 20,096 円

3 上記2に対する評価

- (1) 桶川市生涯学習推進会議を開催し、生涯学習に関する事業について意見を伺い、令和4年度の事業計画に生かすことができた。
- (2) 桶川市社会教育委員会議を開催し、各委員の立場での活動状況や意見を聞くことができた。
- (3) 社会教育指導員を設置し、社会教育についての高い専門性に基づき、小・中学校PTA連合会活動の支援や桶川市民大学の開講、その他各種講座等を開催し、市民の学習の機会を提供することができた。

4 今後の取組方針

- (1) 桶川市生涯学習推進会議
桶川市の生涯学習における事業の推進について調査・審議する。
- (2) 桶川市社会教育委員会議
「社会教育の普及・振興」について審議する。
- (3) 社会教育関係委員合同研修会
社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習推進会議委員合同の研修会を実施し、情報交換を深めていく。
- (4) 社会教育指導員
社会教育事業の企画・立案及び社会教育関係団体の指導・育成に務めていく。

5 令和5年度の目標(値)

社会教育関係委員合同研修会のテーマについて令和4年度に実施したアンケートの結果を踏まえながら、時代の流れに即したテーマの研修会を開催する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	学習ボランティア推進事業		
予算額	25,000円	決算額	24,028円
1 事業概要			
学習ボランティアとして市民の学習活動を支援できる人材を「桶川み・ら・い塾一人財バンク」に登録し、活用を図った。			
2 事業実績			
(1) 登録状況：登録者数 36人 登録団体数10団体			
(2) 利用状況：0件			
(3) 活動の周知策 広報・ホームページへ掲載した。また、市内の公共施設等にリーフレットを設置し、周知を行った。			
3 上記2に対する評価			
登録状況はコロナ禍という特殊状況でも、登録者数、団体数とも令和3年度を維持したが利用実績はなかった。利用には結びつかなかったが問合せは数件あり、ニーズはあると考える。広く周知を行うことで、潜在的なニーズに答えていくことが必要であると考えられる。			
4 今後の取組方針			
桶川み・ら・い塾一人財バンク利用システムを市民へ広く周知する策を検討する。			
5 令和5年度の目標(値)			
リーフレットにより市民へ広く周知する。また、関係機関への周知等、情報提供の機会を増やしていくことで、利用者の増加につなげる。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事 業 名	人権教育の推進		
予 算 額	4,439,000 円	決 算 額	3,956,355 円

1 事業概要

桶川市人権教育基本方針の趣旨に基づき、社会教育、生涯学習の観点から市民の人権感覚の向上を目指し、人権教育の啓発と推進を行った。

2 事業実績

(1) 桶川市人権教育推進協議会 参加人数 117 人

内 容		開催日	参加人数
協議会	第1回 事業報告、事業計画等	7/1(金)	10 人
	第2回 事業報告、事業計画(案)等	2/14(火)	11 人
研修会	企業等対象人権問題研修会 講演「企業活動と人権」 埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課 持田 倫武 氏	7/22(金)	20 人
	人権教育・啓発講演会 講演「コロナ禍で顕在化した子ども・若者の生きづらさ」 さいたま市子供若者自立支援ルーム 金子 由美子 氏	2/2(木)	76 人

(2) 桶川市立集会所事業

ア 成人学級講座 参加人数 408 人

回	内 容	開催日	参加人数
1	「今そこにいる人と、しっかり出会う」(DVD) 同和問題	5/27(金)	54 人
2	「豊かな人権感覚と身近な人権課題」(講演) 埼玉県県民生活部人権・男女共同参画課 新井茂登 氏	7/15(金)	39 人
3	「ずっと助けてと叫んでた」(DVD) 性的虐待	8/19(金)	51 人
4	「家族で考えるハンセン病」(DVD) ハンセン病	11/11(金)	48 人
5	「ぼけますから、よろしくお願ひします」(映画上映) ※「第49回憲法・人権市民のつどい」と合わせて実施 (作文朗読) 市内小・中学生	12/3(土)	160 人
6	「障害のある人と人権」(DVD) 障害者の人権	2/24(金)	56 人

イ 文化講座 受講人数 67 人 延べ人数 1,333 人

集会所	教室名	受講人数	延べ人数	実施回数
加 納	書道教室	9 人	204 人	24 回
	編み物教室	15 人	288 人	24 回
桶 川	書道教室	27 人	493 人	24 回
	デコパージュ教室	16 人	348 人	24 回

- ウ 夏休み子供教室 令和4年8月4日(木)・5日(金) 桶川集会所
 内 容：人権アニメの視聴、習字教室(6人)、サイエンス教室(11人)
 講 師：文化講座書道教室講師、日本薬科大学講師
- エ 集会所文化講座作品展 令和4年12月10日(土) 桶川集会所
 書道、デコパージュ、編物 来場者数は15人(令和3年度は32人)

○ 集会所事業主要経費

内 訳	金 額
文化講座講師謝礼	614,400 円
集会所光熱水費	693,798 円
集会所管理委託	1,618,688 円
集会所清掃委託	421,850 円
その他	607,619 円
合 計	3,956,355 円

3 上記2に対する評価

- (1) 新型コロナウイルス感染症拡大防止を講じながら研修会を実施し、市内における人権意識の高揚を図ることができた。
- (2) ア 成人学級講座は、コロナ禍においても人権啓発を行うことができた。
 イ 文化講座は、予定した24回を全て実施することができ受講人数は増加した。
 ウ 夏休み子供教室では、新たにサイエンス教室を取り入れ、より幅広い子ども達に対し、人権問題に触れる機会を提供することができた。
 エ 集会所文化講座作品展の来場数は少なかったが、「今後も続けてほしい」という声が聞かれた。

4 今後の取組方針

- (1) 桶川市人権教育推進協議会、集会所事業は、様々な人権課題の早期解決を目指し、市民の人権感覚の向上への推進役として事業に関わる人々の意識を高めていく。
- (2) 企業等人権問題研修会は、実施時期や話題性を考慮し、興味・関心をもてるよう、内容を精選し、充実させることで人権意識を高める。今日的な課題について意欲的に実践が図れるよう啓発物を配布し、人権問題に触れる機会を作る。また、市内の事業者の参加に向け、事業所を訪問して周知を行う。

5 令和5年度の目標(値)

- (1) 日常生活において、自分事として態度や行動で人権への配慮ができるよう、人権感覚を養う研修・講座等の内容を設定する。
- (2) 文化講座、集会所文化講座作品展は、市役所1階市民ギャラリーでの2週間程度の展示に内容を変更し、より多くの方に集会所の活動に興味を持ってもらうことで、人権啓発につなげる。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財保存管理交付金及び文化財保存事業費補助金交付事業		
予算額	448,000円	決算額	207,500円

1 事業概要

市内に所在する個人所有の指定文化財の適切な保存を図るため、その管理者等に対し、当該文化財の管理又は維持に要する経費として「桶川市指定文化財保存管理交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。また、文化財の修繕等の経費に対して「桶川市文化財保存事業費補助金交付要綱」に基づき補助金を交付した。

2 事業実績

(1) 桶川市指定文化財保存管理交付金

区分	件数	種別	種類	名称	交付金額
国指定文化財 1件	1	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	10,000円
県指定文化財 5件	2	有形	建造物	桶川宿本陣遺構	7,500円
	3	記念物	史跡	熊野神社古墳	7,500円
	4	記念物	天然記念物	倉田の大カヤ	7,500円
	5	記念物	天然記念物	光照寺コウヤマキ	7,500円
	6	旧跡	旧跡	梵語学者盛典の墓	7,500円
市指定文化財 22件	7	有形	建造物	諏訪神社本殿	5,000円
	8	有形	建造物	泉福寺山門並びに石造仁王像一棟二躯	5,000円
	9	有形	建造物	矢部家住宅	5,000円
	10	有形	工芸品	泉福寺の銅製釣灯籠	5,000円
	11	有形	古文書	旧小針領家村松川家文書	5,000円
	12	有形	古文書	旧五町台村渋谷家文書	5,000円
	13	有形	古文書	旧倉田村荒井家文書	5,000円
	14	有形	古文書	旧倉田村明星院領星野家文書	5,000円
	15	有形	歴史資料	天満神社の木製の額	5,000円
	16	有形	歴史資料	紅花商人寄進の石燈籠二基	5,000円
	17	有形	歴史資料	川辺の板石塔婆	5,000円
	18	民俗	有形民俗	稲荷神社の力石	5,000円
	19	民俗	有形民俗	天神道の道しるべ	5,000円
	20	民俗	有形民俗	樋詰の道しるべ	5,000円
	21	民俗	有形民俗	名号塔兼ねた道しるべ	5,000円
	22	民俗	有形民俗	小針領家のささら獅子舞用具一式	5,000円
	23	記念物	史跡	木戸跡（下）	5,000円
	24	記念物	史跡	加納城址	5,000円
	25	記念物	天然記念物	シイガシ	5,000円
	26	記念物	天然記念物	多気比売神社の大シイ	5,000円
	27	記念物	天然記念物	ムクロジ	5,000円
	28	記念物	天然記念物	普門寺のしだれ桜	5,000円
計	28				157,500円

(2) 桶川市文化財保存事業費補助金

区分	種別	種類	名称	内容	事業費	補助率	補助額
国登録	有形	建造物	島村家住宅土蔵	入口扉の交換工事	100,000円	1/2	50,000円

※ 令和3年度は3件：147,530円、令和2年度は4件：280,115円

【事業内容】

建物東側側面の北側に設置されている入口の扉が腐朽したため、交換工事を実施した。



島村家住宅土蔵

3 上記2に対する評価

- (1) 交付金交付事業の交付額は、交付件数に変更がなかったことから前年度と同額であった。交付金交付事業を通して文化財保護と保存についての意識啓発を図るとともに、所有者及び管理者の協力を得て、指定文化財を適切に管理することができた。
- (2) 補助金交付事業は、所有者等の実施する文化財の修理等の保存事業に伴う申請に基づき交付されるため、年度ごとの件数と交付額には変動が生じる。文化財所有者の行う文化財の管理、補修等に対して補助金を交付することで、文化財の保存と継承に寄与することができた。なお、当初実施予定であった天然記念物の管理事業については所有者の都合により実施されなかった。

4 今後の取組方針

- (1) 交付金交付事業については、現在指定されている文化財への交付金を継続して交付する。また、新規に指定された文化財に対しては、翌年度からの交付に向けて、予算を確保する。
- (2) 補助金交付事業については、所有者及び管理者に対し、引き続き本制度の周知と積極的な活用の推進を図る。また、定期的に文化財の状態を把握する現況調査の過程において所有者との連携を深め、計画的な文化財の修理・保存につなげていく。

5 令和5年度の目標（値）

- (1) 交付金交付事業について、交付対象である全28件に対し、交付金の交付を行う。
- (2) 補助金交付事業について、事前相談のあった1件に対し、所有者と事業の実施について協議を行い、補助金の交付を行う。また、所有者及び管理者に本制度の更なる周知と活用の推進を図るとともに、定期的に現況調査を実施し、修繕等が必要な文化財の把握を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	民俗芸能保存事業交付金交付事業		
予算額	570,000円	決算額	480,000円

1 事業概要

伝統的な民俗芸能の伝承団体に対して、その保存、伝承及び後継者育成に要する経費に充てるため、「桶川市民俗芸能保存事業交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。

2 事業実績

桶川市民俗芸能保存事業交付金

No.	芸能の名称	団体の名称	交付金額	備考
1	岡村の囃子	岡村囃子連	30,000円	
2	岡村の万作	岡村万作保存会	30,000円	市指定
3	倉田の囃子	倉田囃子保存会	30,000円	市指定
4	桶川市子どもばやし	桶川市本街子ども囃子保存会	30,000円	
5	小針領家ささら獅子舞	小針領家獅子舞保存会	30,000円	市指定
6	下日出谷の囃子	下日出谷囃子連	30,000円	市指定
7	下日出谷の餅つき踊り	下日出谷餅搗踊り保存会	30,000円	市指定
8	下日出谷の万作	下日出谷万作踊り保存会	30,000円	市指定
9	諏訪の万作	諏訪万作保存会	30,000円	市指定
10	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会	30,000円	市指定
11	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会	30,000円	市指定
12	松原の真言	松原真言保存会	30,000円	県指定
13	松原の万作	松原万作保存会	30,000円	市指定
14	三田原の万作	三田原万作連	30,000円	市指定
15	夫婦獅子舞・囃子	武州桶川宿本街保存会	30,000円	
16	薬師堂の囃子	薬師堂囃子連	30,000円	
計			480,000円	

3 上記2に対する評価

令和4年度は令和3年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響を受け、地域の祭礼等における民俗芸能の伝承活動は開催されなかったが、例年どおり交付金を交付することで、民俗芸能伝承団体の活動意欲が途切れないよう、その存続に寄与することができた。

4 今後の取組方針

- (1) 今後も交付金事業を継続するとともに、県や民間の助成金等の情報提供を行い、伝承団体の活動を支援する。また、各団体の活動意欲の維持のため、市外にも広く周知されるような活動の場の提供や情報発信を行う。

5 令和5年度の目標（値）

- (1) 交付対象の16団体に対して交付金の交付を継続して実施するとともに、活動実績のある未交付団体に対して調査を実施し、新たに交付対象団体に加え、速やかに交付金を交付する。

また、県や民間の補助金、助成金についての情報を収集し、情報提供を行う。

なお、新型コロナウイルスの対応が緩和されたことから、今後徐々に活動を再開する団体が出てくると思われることから、積極的に情報交換を行い再開の時期についての相談等の支援を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財調査事業		
予算額	190,000円	決算額	72,600円

1 事業概要

市内の指定及び未指定文化財の現状確認に伴う情報収集や新たな文化財指定に向けた文化財の調査を実施した。

2 事業実績

(1) 舎人新田地区の熊野神社境内と五丁台地区の稲荷神社境内で行われている大山灯籠行事について文化財調査を実施した。7月になると市内各所で行われているが、これまで調査実績が少なかったため、灯籠設置と灯籠じまいの様子等、貴重な情報を収集することができた。



(1) 大山灯籠行事（舎人新田地区）



(2) 桶川子ども囃子合同発表会

(2) 例年桶川祇園祭で披露されている子ども囃子が新型コロナウイルスの影響に伴い中止になったが、桶川子ども囃子連合会による合同発表会が開催された。日頃の練習の成果を元気に披露し、コロナ禍にも負けず、祇園祭の賑わいを受け継いでいる姿を記録に収めることができた。

(3) 市内に設置している文化財説明板のうち、経年劣化により表示面が判読できなくなっているものや破損が生じているものについて、改修を実施した。県指定「梵語学者盛典の墓」、市指定「後谷遺跡」、市指定「原山古墳群」の3件の改修を行った。



(3) 文化財説明板改修事業（市指定「後谷遺跡」）

(4) 市指定文化財(史跡)「原山古墳群」について、見学者の利便及び史跡と緑の保護を図ることを目的として、市内の緑化ボランティア団体の協力を得て、除草作業や枯枝の収集等の環境整備を計5回実施した。



(4) 原山古墳群の環境整備



(5) 第69回文化財防火デー消防訓練(明星院)

(5) 桶川消防署主催の元、文化財を災害から守ることを目的とした「第69回文化財防火デー」に伴う消防訓練が倉田の明星院で実施された。市職員と文化財関係者が参加し、文化財の搬出や初期消火の方法を体験することで、防災意識を高めることにつながった。

3 上記2に対する評価

- (1)、(2)については、文化財調査を実施することにより、新たな知見を得ることで、文化財の指定、保護、保存につながる貴重な情報を収集することができた。
- (3)、(4)については、桶川市の歴史を語り継ぐ貴重な文化財を保存し継承することで、見学者の見識を深めるという文化財の活用的一端を担うことができた。
- (5)については、文化財管理者である市民も訓練に参加することで、文化財防火デーの趣旨の元、意識の高揚につなげることができた。

4 今後の取組方針

- (1) 調査継続中の文化財については、市指定文化財に指定することができるよう、引き続き調査を実施する。
- (2) 新たな指定候補の発見や情報収集に努め、指定候補物件への引き上げを検討するための基礎資料を随時更新する。
- (3) 指定に向けた調査等の件数を増やす。
- (4) 文化財の適切な保存と活用のために、「桶川市文化財保存活用地域計画」の策定に取り組む。

5 令和5年度の目標(値)

- (1) 文化財指定に向けた調査を実施し、新たに文化財を指定する。
- (2) 新たな指定候補の発見や情報収集に努め、随時基礎資料を作成し指定候補物件へ追加する。
- (3) 保管状態を確認するため、古文書等の個人所蔵の指定文化財について調査を実施する。
- (4) 「桶川市文化財保存活用地域計画」の策定に向け、埼玉県や他市町村から情報収集を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	管理運営経費		
予算額	227,017,000円	決算額	226,864,873円

1 事業概要

図書館サービスの充実を図るため、指定管理者による維持管理業務を行った。

2 事業実績

(1) 貸出者数、貸出冊数の推移

		中央	桶川	川田谷	坂田	4館合計	1日あたり
令和2年度	貸出者数(人)	78,629	9,847	3,527	19,321	111,324	102
	貸出数(冊)	242,387	29,982	13,389	72,807	358,565	328
	開館日数(日)	296	251	251	296	1,094	—
令和3年度	貸出者数(人)	99,594	11,867	4,118	25,600	141,179	108
	貸出数(冊)	305,088	36,723	15,041	97,692	454,544	347
	開館日数(日)	354	302	302	354	1,312	—
令和4年度	貸出者数(人)	98,023	11,508	961	24,472	134,964	129
	貸出数(冊)	300,732	36,121	3,285	95,455	435,593	418
	開館日数(日)	337	293	76	337	1,043	—

(2) OKEGAWA h o n プラス+イベントスペースにおいて、展示イベントを12回実施した。また、図書への関心を深めるため、紙媒体で『OKEGAWA h o n プラス+通信』(大人向け)と『OKEGAWA h o n プラス+子ども通信』(児童向け)を各4回発行した。参加型のイベントとして、近隣の施設を含めたウォークラリーも開催した。

3 上記2に対する評価

(1) 令和4年度の4館合計の開館日数は1,043日で、改修工事による川田谷図書館の長期休館やシステム入替休館の為、令和3年度より269日減少したものの、令和3年度と比べ貸出者数は21人、貸出冊数は71冊増加した。令和4年度の利用者アンケートの総合的な満足度は90%であった。

(2) OKEGAWA h o n プラス+のイベントは講演会、ワークショップ、展示など様々な形式で行い、アンケートでの満足度調査では無回答を除き、全てが「満足」と回答しており、好評だった。

4 今後の取組方針

- (1) 4館の安定した運営を図り、情報共有を密にし、均質なサービスの提供を行う。
- (2) 指定管理の新たな取組みによる自主事業の開催の充実を図る。

5 令和5年度の目標(値)

- (1) 利用者ニーズに合った図書資料の充実を図り、貸出者数142,000人を目指す。
- (2) 更なるサービスの向上を図り、引き続き、利用者アンケートの総合的な満足度90%以上を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	図書館業務推進事業		
予算額	28,154,000円	決算額	27,779,358円
1 事業概要			
図書資料を購入し、幅広い年齢層を対象に事業を実施した。			
2 事業実績			
(1) 図書資料の購入			
	購入冊数	(前年比較)	購入金額
			(前年比較)
図書資料	3,968冊	減2,176冊	6,819,198円
			減3,529,248円
その他資料（紙芝居等）購入金額 57,728円			
(2) セカンドブック事業の実施 実施人数 542人 金額 735,779円			
(3) 読み聞かせボランティア養成講座の開催 参加者 43人			
(4) おはなし会：実施回数 93回 参加者延べ人数 児童426人 大人269人			
(5) ボランティアとの協働事業			
「子供への読み聞かせの指導・読み聞かせの実践」			
参加児童 読み手 13人 聞き手 20人 ボランティア（指導） 9人			
主な歳出：需用費（図書購入費含） 9,999,912円			
委託料（電算機器保守等） 5,935,380円			
使用料及び賃借料（電算機器・書誌情報借上）10,997,436円			
3 上記2に対する評価			
(1) 令和3年度に地方創生地域支援事業を活用した図書資料の購入を行った反動で、前年比較では購入冊数が減ったが、3,968冊の資料を購入し、図書充足率（人口1人当たりの蔵書冊数）は微増の3.29冊となった。			
(2) 小学1年生を対象に本を1冊プレゼントするセカンドブック事業を継続実施し、本に親しむきっかけ作りを支援した。			
4 今後の取組方針			
(1) 図書館に所蔵する図書資料の充実を図る。			
(2) 学校と連携して小学1年生を対象に「セカンドブック事業」を実施し、本に親しむきっかけ作りを支援する。			
(3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、縮小していたボランティア団体の協力によるスペシャルおはなし会を再開させる。			
5 令和5年度の目標（値）			
(1) 貸出者数142,000人を目指し、利用者ニーズに合った展示や図書資料の充実を図る。			
(2) 図書充足率（人口1人当たり）			
埼玉県公立図書館平均を超えた状態を維持する。			
（令和3年度 埼玉県平均 3.22冊）			

点検評価シート 【生涯学習・スポーツ推進課】

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	スポーツ指導者育成事業		
予算額	2,001,000円	決算額	1,863,180円

1 事業概要

市民の健康増進に寄与するスポーツ指導者の育成支援を行った。

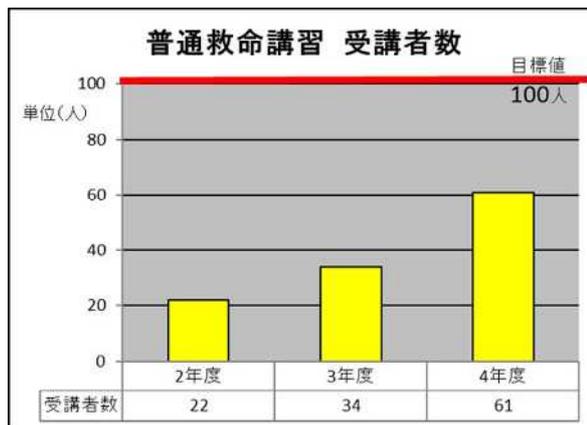
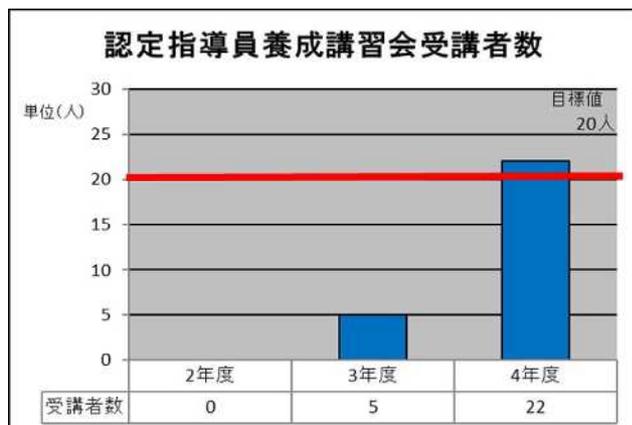
2 事業実績

(1) 桶川市スポーツ推進委員、桶川市スポーツ少年団、桶川市スポーツ協会及び桶川市レクリエーション協会に情報提供を行い、活動を支援した。

<報酬：1,675,000円、費用弁償：188,180円>

スポーツ少年団の指導者養成講習会が複数回開催された。(受講者：22人)

(2) 桶川市スポーツ推進委員、桶川市スポーツ協会加盟団体指導者及び桶川市スポーツ少年団を対象に「普通救命講習」を実施した。(受講者：61人)



3 上記2に対する評価

(1) 新型コロナウイルス対策の行動制限見直しにより、講習会の実施回数が増え、受講者数の目標を達成することができた。

(2) 各団体向けに「普通救命講習」を実施し、受講したスポーツ推進委員、スポーツ協会加盟団体指導者及びスポーツ少年団指導者はAEDの取り扱いや応急手当について知識を深めることが出来た。

4 今後の取組方針

(1) スポーツ指導者を対象とした研修を実施し、指導者としての資質の向上を図る。

(2) 「普通救命講習」をスポーツ推進委員、スポーツ協会加盟団体指導者及びスポーツ少年団指導者に継続的に実施する。また、過去に受講された、学校体育施設開放利用団体にも再度受講を促し、指導者としての資質の向上を図る。

5 令和5年度の目標(値)

スポーツ指導者に対し講習会の受講を促す。

(1) 認定指導員養成講習会受講者数 20人(20回実施)

(2) 普通救命講習受講者数 100人(4回実施)

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	活動団体支援の充実（2044）		
事業名	スポーツ団体への支援事業		
予算額	4,755,000円	決算額	4,754,775円

1 事業概要

生涯スポーツの推進及び健康増進を図るため、各種スポーツ団体に支援を行った。

2 事業実績

(1) スポーツ団体等の支援・育成のため、以下のとおり補助金を交付した。

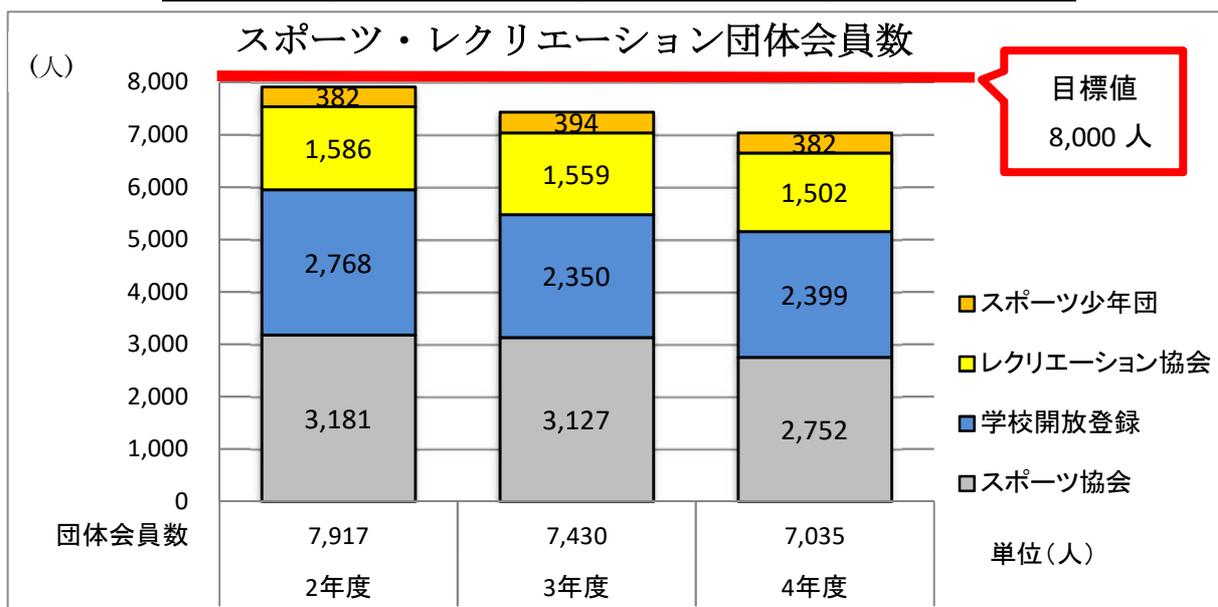
件名	金額
桶川市スポーツ協会補助金	1,700,000円
桶川市スポーツ少年団補助金	560,000円
桶川市レクリエーション協会補助金	240,000円
桶川市スポーツ推進委員連絡協議会補助金	240,000円

(2) スポーツの振興を図るためのイベントを実行委員会形式で実施した。地区別体育祭は6地区のうち3地区の実施となった。

件名	金額
地区別体育祭運営交付金	1,152,775円
スポーツフェスティバル交付金	400,000円
駅伝競走大会交付金	400,000円

(3) スポーツ・レクリエーション団体会員数の推移

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
会員数	7,917人	7,430人	7,035人



参考：桶川市人口 75,286 75,174 74,691 各年度4月1日現在

3 上記2に対する評価

- (1) 各種活動団体に補助金を交付することにより、活動を支援し、生涯スポーツの普及・促進に寄与することができた。
- (2) ウォークラリー等の情報提供を行ったことにより、各地区で種目等を工夫し、コロナ禍の中でも3地区で地区別体育祭を開催することができた。
また、オケちゃん駅伝競走大会とスポーツフェスティバルは、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底し、通常通り開催することができた。
- (3) スポーツ・レクリエーション団体会員数は減少し、目標値の8,000人に届かなかった。コロナ禍の影響でここ2年新規加入が減ったことが最大の要因と考える。
まずは人口比10%の会員数を復活できるように会員募集の周知や体験会の実施など、更なる会員数の増加に繋がるような取組が必要である。

4 今後の取組方針

- (1) 各種活動団体に対する支援並びにイベントを通じて、多世代間の交流を行い、生涯スポーツの普及・推進を図り、スポーツ・レクリエーション団体会員数の増加及び活動の充実を目指す。
- (2) 学校開放備品の充実、メンテナンスを行い、スポーツ・レクリエーション団体が活動しやすい環境を作り、会員数の増加を目指す。
- (3) 埼玉上尾メディックスや日本体育大学、埼玉西武ライオンズとの相互連携協定に基づき、スポーツ教室や研修会に、教職員や学生を派遣していただくことにより、生涯スポーツの普及・推進に繋げる。
なお、日本体育大学との連携事業としては、「ウォーキング教室」をはじめ、「スポーツフェスティバル」などのイベントでの連携を推進し、定着を図る。

5 令和5年度の目標(値)

スポーツ・レクリエーション団体会員数 5年後(令和10年度) 8,000人
令和5年4月1日現在の人口74,632人の10%(7,463人)以上を目標とする。

※内訳(スポーツ協会2,960人、スポーツ少年団400人、レクリエーション協会1,540人、学校開放団体2,580人)

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる						
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）						
基本事業	施設の充実（2045）						
事業名	スポーツ施設維持管理事業						
予算額	76,697,000円	決算額	76,396,348円				
1 事業概要							
スポーツ関連施設の適切な維持管理を行い、生涯スポーツの普及、推進を図った。							
2 事業実績							
(1) 体育施設の管理<施設管理委託 74,599,000円ほか>							
サン・アリーナ、舎人スポーツ・パーク、新小針領家グラウンド、総合運動場の体育施設について、その管理、受付業務、利用料金収納業務等を指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社に委託し、体育施設の維持管理を行った。							
<利用状況>							
	区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度			
	サン・アリーナ	167,708人	206,519人	229,878人			
	舎人スポーツ・パーク	11,156人	11,168人	10,195人			
	新小針領家グラウンドA	1,525人	2,366人	2,328人			
	新小針領家グラウンドB	4,075人	4,923人	3,539人			
	総合運動場	12,676人	16,652人	16,522人			
(2) 学校体育施設開放事業							
<AED借上料：315,048円、夜間照明維持管理 405,000円ほか>							
すべての小・中学校において、学校体育施設開放事業として施設を開放し、市民のスポーツ活動の拠点として利用される施設の維持管理を行った。							
<登録状況>							
	区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度	
		団体数	利用人数	団体数	利用人数	団体数	利用人数
	小中学校施設利用団体	125団体	2,512人	125団体	2,166人	127団体	2,207人
	夜間照明施設利用団体	7団体	256人	8団体	184人	8団体	192人
3 上記2に対する評価							
(1) 既存の体育施設については、指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社による備品の更新や必要に応じた補修及び点検等により、良好な維持管理を行った。							
また、（公財）桶川市施設管理公社が行った「サン・アリーナ」の利用者アンケート調査の結果として、89%（令和3年度88%）の利用者から「満足」との回答があった。							
なお、各施設の利用状況は、コロナ禍での生活様式が定着したことにより、コロ							

ナ前と同様の状況に戻りつつある。

- (2) 学校体育施設開放事業については、全ての小・中学校に設置しているAEDや、桶川中学校に備え付けてある夜間照明設備の維持管理・点検等により、良好な維持管理を行った。

4 今後の取組方針

- (1) 体育施設・学校体育施設について、備品の更新、施設の補修、点検等の維持管理を行う。
- (2) 総合運動場の環境を改善するためトイレの改修工事を実施する。
- (3) 桶川サン・アリーナ柔道場の畳の改修工事を実施する。

5 令和5年度の目標（値）

- (1) 体育施設・学校体育施設の利用環境を良好な状態に維持する。
- (2) 既存の屋外体育施設である総合運動場の環境改善に繋がる改修事業を継続的に実施する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	幼児・家庭教育セミナー事業		
予算額	61,000円	決算額	60,500円

1 事業概要

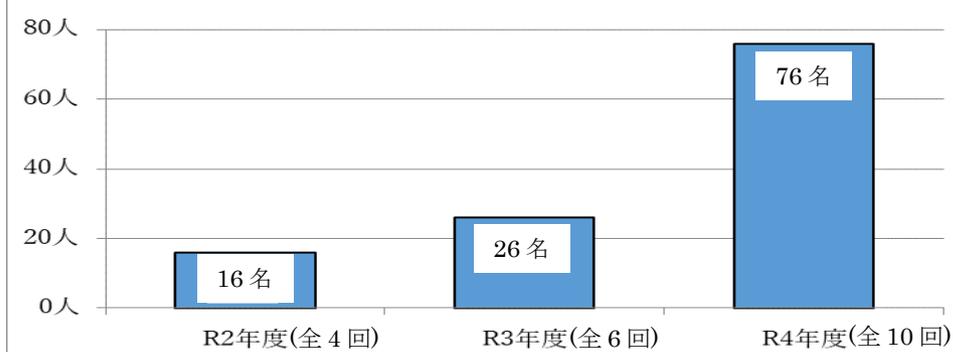
子育て中の方を対象に「幼児教育」「家庭教育」について学び、活かすことができる保育付きの講座を企画した。令和4年度は、共働き家庭も参加しやすいよう、日曜日午後に開催した。また、選択制カリキュラムを導入し、全10回実施した。

2 事業実績

選択・回数	講座名	実施日	定員	参加人数
必須 1	開講ガイダンス&かつおぶしの上手なつかい方	1/15	20	10 (10)
選択	2 ゆがみを整えるバランスボール～骨盤矯正～	1/22		5 (3)
	3 成長にあわせた子どもとのかかわり方	1/29		6 (6)
	4 子育てのイライラがとまらない！うまく乗り切る方法	2/5		8 (7)
	5 メインにちょい足し&もう一品！簡単栄養バランス術	2/12		7 (10)
	6 子どもの感性を育てる、手づくりおもちゃ	2/19		5 (4)
	7 「はだし保育」を体験しよう！親子でリズム体操	2/26		20 (1)
	8 「子どもの絵」にみる発達と課題	3/5		4 (8)
	9 子どもへの暴力防止 CAPプログラムの話	3/12		1 (4)
必須 10	疑問にこたえる！市役所関係各課からの話	3/19		10 (18)
計			200	76 (71)

() 内は保育児数

幼児・家庭教育セミナー参加者推移



3 上記2に対する評価

目標値には届かなかったものの、開催曜日の変更、講座回数の増加、選択制カリキュラムの導入により前年度比約3倍の参加人数となり、家庭教育力の向上が図られた。

4 今後の取組方針

事業見直しにより成果がみられたことから、引き続き子育て世代のニーズを把握しながら事業を継続する。

5 令和5年度の目標(値)

事後アンケートでも継続希望があり、また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことなどから参加者の増加が見込まれるため、100人を目標値とする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	講座開催事業		
予算額	1,215,000円	決算額	1,150,018円

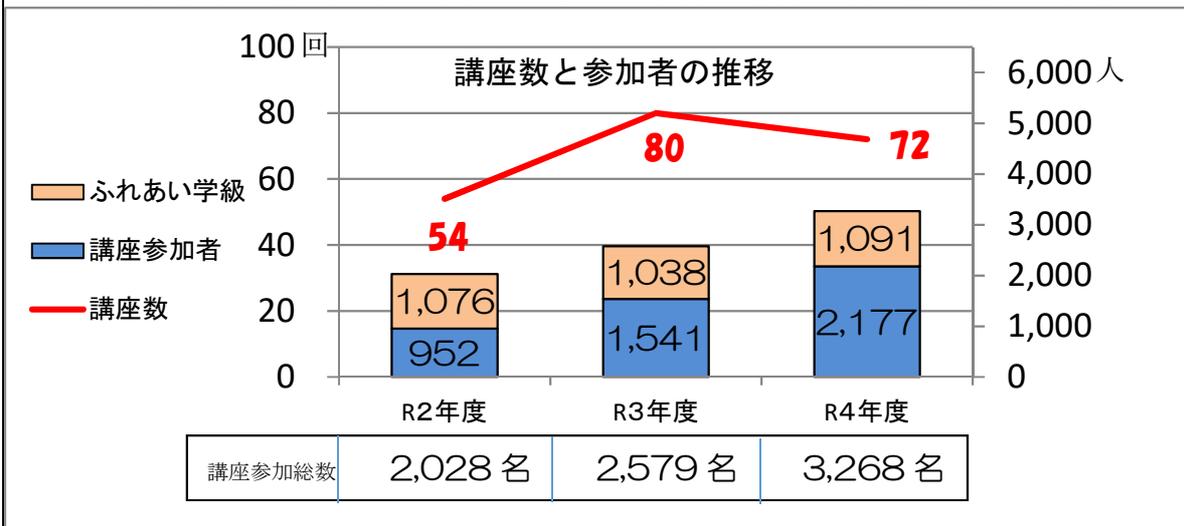
1 事業概要

学習意欲のある市民の多様なニーズを捉え、様々な機会に時代に即した質の高い講座を提供した。

2 事業実績

新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら4館合計72講座（川田谷公民館は令和4年7月から休館）を実施した。同一テーマで複数回、複数館にわたる講座を開催したほか、働く世代に向け夜間講座を開講、また、民間も含め社会教育を支える様々な部署・機関との共催事業を実施した。

「夏休み子どもワールド」では電子申請による受付を初めて導入した。さらに、中学校社会体験チャレンジ事業の受け入れを行う中で、利用機会の少ない中学生のニーズを把握する機会と捉え、参加生徒と企画案を作成し、実際に講座を開催した。



3 上記2に対する評価

川田谷公民館改修工事伴う休館のため、講座数は減少したものの参加者の延べ人数では約700人増加した。コロナ対策を行う中で、徐々に募集定員を回復させ、調理室で行う講座では飲食を再開することができた。また、新たにサークル3団体が設立された。

4 今後の取組方針

- (1) 自己表現、自己実現、地域課題解決のため、講座を開催する。
- (2) 世代間・地域間の交流を図る講座の開催。サークル等団体の活動を支援する。
- (3) 他の関係者・機関とのコラボレートによって、社会教育活動の充実を図る。

5 令和5年度の目標（値）

5月からコロナ感染症が5類へ移行することから、講座参加者数を4,000人とする。また、多様な「学び」の機会の創出として、試行的に特別な教育的配慮が必要な児童生徒向けの講座を開催する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	公民館業務運営事業		
予算額	16,506,000円	決算額	15,020,416円

1 事業概要

市民に社会教育活動の場を提供するために必要な公民館施設の管理運営を行う。

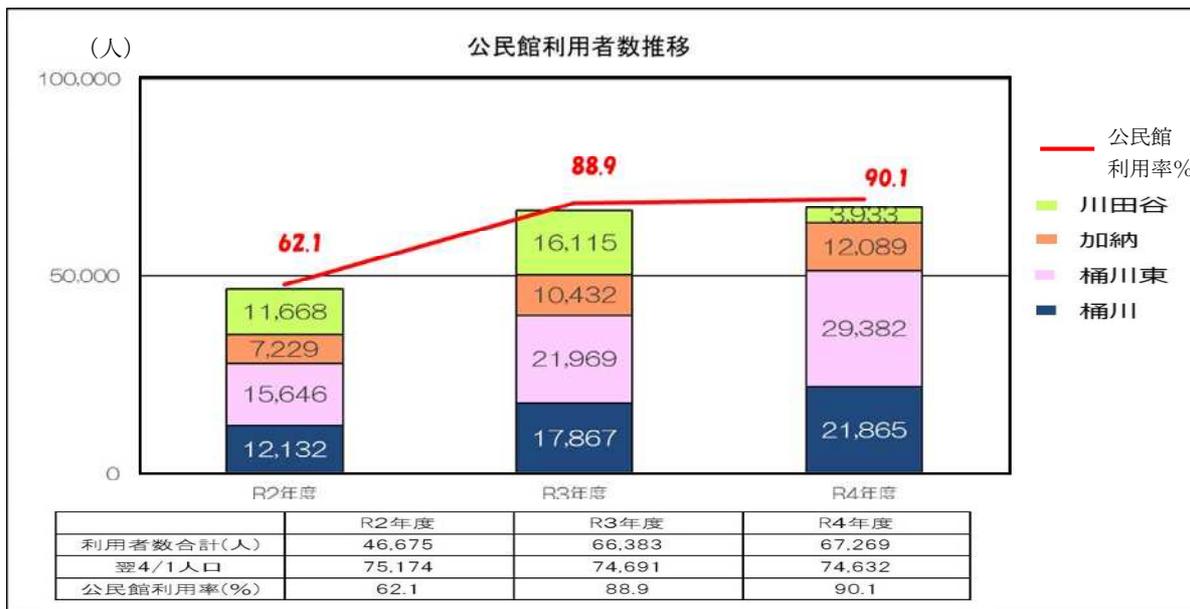
2 事業実績

(1) 公民館運営審議会委員の研修

例年実施している公民館運営審議会委員、社会教育委員、生涯学習推進会議委員による合同研修会は、「自分と世界を変える学び—聖学院大学のSDGsへの取り組み」と題する講演を大学教授に依頼し、講義を行った。

(2) 公民館利用の状況（利用者推移と利用率）

令和4年7月からの川田谷生涯学習センター（川田谷公民館）大規模改修工事に伴う休館の影響にもかかわらず、全館合計の利用者数・利用率を比較すると微増した。川田谷公民館を除く3館は、利用者数・利用率ともに増加した。



3 上記2に対する評価

公民館利用率(年間公民館利用者数/市人口)は90.1%であった。目標とした100%には届かなかったものの、新型コロナウイルス感染症に伴う利用制限を段階的に緩和したため、利用状況はコロナ流行以前に戻りつつある。

4 今後の取組方針

- (1) 新型コロナウイルス感染症の今後の動向に注視しつつ、「公民館利用の手引き」に基づき、新規利用者の受け入れを行っていく。
- (2) 要綱に基づきサークルを育成するとともに、「学びの循環」をめざし、既存サークル向けに講師養成講座や新規会員獲得のための事業を引き続き行う。

5 令和5年度の目標(値)

新型コロナウイルス感染症の5類への移行、川田谷公民館のリニューアルオープンなど、状況が改善傾向にあることから、前年度公民館利用率実績値(90.1%)を上回る100%を目標とする。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	生涯学習センター管理事業		
予算額	11,594,000円	決算額	9,874,148円
1 事業概要	<p>川田谷生涯学習センター大規模改修工事に伴い、令和4年7月1日より施設が休館となった。休館前については、生涯学習実践の拠点施設として、川田谷生涯学習センターを構成する歴史民俗資料館、川田谷公民館及び川田谷図書館が健全に機能を発揮し、市民の学習の場を提供できるよう、施設の維持管理を行った。</p> <p>休館後については、円滑に改修工事を進めるために、関係課と継続的な協議を行った。</p>		
2 事業実績	<p>川田谷生涯学習センター共通</p> <p>利用者の安全及び施設利用環境の改善に関わり、主に以下の事業を実施した。</p> <p>① 設備保守委託 4,092,217円</p> <p>② 警備委託 78,540円</p> <p>③ 不用薬品処理委託 9,889円</p>		
3 上記2に対する評価	施設の利用者の安全管理や利用に関わる施設の改善を図ることができた。		
4 今後の取組方針	令和4年度及び5年度に実施する川田谷生涯学習センターの大規模改修工事により、施設の環境整備を図る。		
5 令和5年度の目標(値)	<p>(1) 川田谷生涯学習センター再開後は設備保守をはじめとする新たな施設環境の整備に努め、円滑な施設管理体制の構築を図る。</p> <p>(2) 令和6年度に開設する「道の駅(仮称)おけがわ」に併せて実施を予定している川田谷生涯学習センターの外構工事について、関係課と協議し整備を進める。</p>		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	資料調査・収蔵事業		
予算額	674,000円	決算額	655,078円
1 事業概要			
地域の歴史、文化に関わる資料について、調査、収集を行い、それらを収蔵した。			
2 事業実績			
(1) 資料収集事業 [消耗品費 163,378円]			
ア 有形資料：太子講関係資料、麦打ち唄関係資料、半纏ほか諸職関係資料			
イ 無形資料（デジタル資料）：泉福寺花まつり、浄念寺お十夜、本学院節分行事 （その他行事や民俗芸能等は新型コロナウイルス感染症拡大により中止）			
ウ 歴史資料：教科書、図書、冊子ほか			
エ 考古資料：後谷遺跡出土遺物ほか			
(2) 資料調査事業			
ア 無形文化財調査：五丁台地区ほか7地区大山灯籠調査（文化財課と合同調査）			
(3) 資料管理業務 [委託料 491,700円]			
ア 特別収蔵庫の酸除去用浄化剤の交換を委託にて実施した。 実施期間：8月15日			
イ 燻蒸・殺虫業務を委託にて実施した。 実施期間：8月15日から8月18日 燻蒸・殺虫の対象とした資料：民具、古文書、歴史資料等			
3 上記2に対する評価			
本事業は、歴史民俗資料館の最も基礎的な業務として実施した。			
(1) 資料収集事業は、依頼に基づき新規資料を収蔵することにより、文化財の保護に繋がった。			
(2) 資料調査事業は、調査を継続的に実施した。また、写真、映像資料等のデジタル保存を行うことで、貴重な資料を安全に保存できる環境が整った。			
(3) 資料管理業務は、一般収蔵庫、特別収蔵庫及び展示室の資料について、燻蒸・殺虫業務を実施し、適切な収蔵環境を確保した。			
4 今後の取組方針			
(1) 大規模改修工事終了後、資料の収蔵・展示環境を整えて、適切な管理を行うために環境調査を実施する。			
(2) 資料管理システムを活用し、収蔵資料の情報公開の更新を行う。			
5 令和5年度の目標(値)			
(1) 大規模改修工事期間中において、温湿度管理等に留意しながら収蔵資料を適切に管理する。			
(2) 歴史民俗資料館ホームページに掲載している収蔵資料データベースの更新及び充実を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	教育普及事業		
予算額	94,000円	決算額	83,892円
1 事業概要			
桶川の歴史と文化を、講座や連携事業を通じて市民に広く伝えた。			
2 事業実績 [消耗品費 83,892円]			
(1) 講座事業			
ア 特別講座			
	テーマ及び講師	開催日	参加者数
	「足立遠元を紹介します」資料館職員	7月16日	35人
イ 出前講座			
	テーマ及び講師	開催日	参加者数
	「資料からみる足立遠元の事績」資料館職員	5月19日	20人
	「足立遠元の来歴について」資料館職員	11月16日	7人
	「中世・近世からみる川田谷の歴史」資料館職員	3月26日	20人
(2) 体験学習事業			
	テーマ及び講師	開催日	参加者数
	切り絵体験（べに花まつり関連事業）桶川切り絵を楽しむ会	6月18日	50人
	べに花染め体験（べに花まつり関連事業）資料館職員	6月19日	37人
	べに花染め体験 資料館職員	8月14日	26人
(3) 連携交流事業			
ア 博学連携事業			
	事業名	参加校	参加者数
	小学校3年生社会科に関わる出前講座	市内2校	258人
	小学校3年生総合的な学習に関わる出前講座	市内1校	38人
イ その他の連携交流事業			
	事業名	開催日	参加者数
	図書館連携事業「第三回桶川歴史講座 桶川の特産物「紅花の歴史を探る」	6月12日	25人
	平和を考える10日間事業「戦時の桶川」	8月8日	20人
	市民大学講義「足立遠元の来歴について」	9月15日	40人
	市民大学講義「桶川の歴史-徳川家康に仕えた家臣たち-」	1月26日	40人
	OKEGAWA hon プラス連携事業「私たちの埼玉を知る2023 我がまちの歴史と自慢の文化財の紹介」	1月29日	30人

(4) 展示参観者数

摘要	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (4月～6月)
入館者数(人)	2,109	2,144	493
開館日数(日)	206	258	78
1日あたり入館者数(人)	10.2	8.3	6.3

3 上記2に対する評価

(1) 川田谷生涯学習センターの大規模改修工事に伴い7月より休館したため、展示事業は実施することができなかった。

一方で、講座事業については例年以上に実施することができた。中でも、NHK大河ドラマに登場する足立遠元については、歴史民俗資料館主催の特別講座や出前講座を複数回実施するなど、市民からも多くの関心を集めていた。

(2) 体験学習事業は、3年ぶりの開催となるべに花まつり関連事業である「切り絵体験」及び「べに花染め体験」を中心に実施した。「べに花染め体験」については、例年と異なり事前申し込みでの対応となったが、問題なく実施することができた。

(3) 連携交流事業として取り組んでいる博学連携事業は、収蔵資料を活用し実体験を重視する内容としているが、施設が休館中であるため、出前授業を行った。資料を外部へ持ち出すため、取り扱いに関しては例年以上に慎重さが要求されたが、支障なく実施することができた。

4 今後の取組方針

(1) 講座事業の開催については、引き続き地域の課題やテーマを積極的に取り上げる。

(2) 資料管理システムの付属アプリケーション「にっぽん風景なび」や「ポケット学芸員」を活用して市内文化財や収蔵資料の周知を進める。

5 令和5年度の目標(値)

(1) 講座事業について、出前講座及び連携交流事業での講座を年間通して実施する。

(2) 展示改修に伴い、新たな常設展示資料を含めた収蔵資料公開データベースの更新及び充実を図る。

(3) 小・中学校とも連携を図りながら、地域学習を深める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	大規模改修事業		
予算額	252,121,000円	決算額	83,027,900円

1 事業概要

川田谷生涯学習センターの老朽化に伴い、長寿命化と利便性を向上させるため、令和4年度及び令和5年度の2か年事業として、施設の大規模改修工事を実施した。

2 事業実績

大規模改修工事として、主に以下の事業を実施した。

予算科目	内容	工事請負費全体契約額	決算額
委託料	引越委託	—	2,263,800円
	設備移設委託	—	364,100円
工事請負費	建築工事	525,800,000円	52,500,000円
	電気設備工事	268,686,000円	27,900,000円
	機械設備工事	178,200,000円	0円
合計		972,686,000円	83,027,900円

3 上記2に対する評価

- (1) 改修工事は関係課と協議し、順調に進捗することができた。
- (2) 川田谷生涯学習センターの事務室移転に伴う引越業務や設備移設業務を計画どおりに実施し、支障なく事務が進められた。

4 今後の取組方針

大規模改修工事について関係課と協議し、令和5年10月末までに完了させて、施設の環境整備を図る。

5 令和5年度の目標(値)

- (1) 川田谷公民館及び川田谷図書館は令和6年1月の開館を目指し、歴史民俗資料館は令和6年4月の開館を目指して準備を進める。

新型コロナウイルス感染症への対応が少しずつ緩和され、コロナ禍前の日常が戻ってきました。桶川市教育委員会におかれましては、令和4年度までの「桶川市第五次総合振興計画」の成果と課題を踏まえ、新たな将来像を掲げ、「桶川市第六次総合計画」に取り組んでいこうとする姿勢が点検評価報告書の内容から伝わってきました。

以下、6つの基本目標ごとに特筆すべき点について意見を述べさせていただきます。

I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実

- ・現在、「学校における働き方改革」の推進が叫ばれる中、どの学校においても人不足は喫緊の課題です。桶川市教育委員会におかれましては、教育指導補助員やICT支援員をはじめ、多くの市費対応による補助員を投入していることが伺えます。教育に携わる人が増えることによって、児童生徒へのよりきめ細やかな指導が為されるとともに、教職員の負担軽減に確実に繋がっていくものと思います。また、GIGAスクール構想の実現に向けて、ICT支援員の配置とともに、ICT機器の活用の向上を目指した研修会等の開催も充実してきました。引き続きICT教育の推進に力を入れて取り組んでいただきたいと思います。
- ・児童生徒にとって、安心・安全な教育環境づくりの整備が進められています。特に小学校4校の体育館空調設備の整備に着手されたことは、夏の体育館内の暑さが尋常でないことを知る者として、とてもすばらしい取組だと思います。ぜひ、早い時期にすべての小中学校に整備されることを切に願います。また、自然災害等によって、体育館が避難所となった場合、空調設備の設置は地域住民にとっても、安心できる場所になることと思います。

II 豊かな心の育成と人権意識の高揚

- ・すべての小中学校に市費負担による相談員やスクールカウンセラーを配置することによって、相談しやすい環境が整備され、相談件数が大幅に増加したことに繋がったものと思います。また、積極的認知（213件→623件）と解消に向けた取組によって、いじめ解消率が昨年度の約60%から約80%に上昇したことは大きな成果だと思います。引き続き、積極的認知を行いながら、「見逃しゼロ」を目指していただきたいと思います。
- ・小学校の不登校児童が、昨年度の32人から61人に増加したことが、やや気になります。スクールソーシャルワーカーが、より家庭に入りやすい環境づくりなど効果的な活用方法を構築していただくことを期待します。

III 健やかな躰(からだ)の育成

- ・コロナ禍が明けつつある中、様々な研修会（体力向上、保健衛生管理、食育の推進等）が、時にオンライン形式を活用しながらも、多くの研修会が対面で開催されたことをうれしく思います。積極的な取組と創意工夫が教職員の資質・能力の向上につながっていくものと思います。

IV 家庭・地域の教育力の向上

- ・家庭の教育力を向上させるための事業（PTAリーダー研修会、PTA家庭教育研究会、親の学習講座等）の積極的な実施を通して、保護者への啓発とともに、学校・家庭・地域が三位一体となって、子どもたちを育てていこうとする桶川市教育委員会の思いが伝わってきます。
- ・すべての小学校で桶川市放課後子供教室が開催されていることに、桶川市教育委員会の努力が伺えます。スタッフの確保が大変だと思いますが、このような取組の積み重ねが、子供たちを育てていくための家庭・地域の教育力の向上につながっていくものと思います。

V 生涯にわたる学びとスポーツの支援

- ・職員出前講座、市民大学、パソコン講習等、様々な生涯学習に関する事業が多岐にわたって計画・実施されています。特に、職員出前講座の実施回数が昨年度の9件から23件に増加したことから、桶川市教育委員会が生涯学習に力を入れて取り組まれていることや「市民ファースト」で進めていることを伺い知ることができます。

VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

- ・文化財や民俗芸能の保存と継承に、地道に継続的に取り組まれていることを伺い知ることができます。引き続き小中学生をはじめ、市民・県民の皆様、桶川市の貴重な伝統文化等を、講座や連携事業を通して発信していただくことを切に願います。

当年度も新型コロナウイルス感染症による制約が依然として残るなか、状況を見極めながら真摯に学校教育・社会教育を推進してきたことがうかがい知れます。今後はコロナ以前への回復と同時に、コロナ後の新しい地域社会を見据えた教育が求められますが、本報告書から既にその萌芽を読み取ることができました。こうした観点も含め、以下では6つの基本目標に即して意見を述べます。

I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実

ICT教育（P6, 10）や英語教育（P13）等、コロナ後さらにグローバル化し続ける社会を見据えた教育が充実しつつあることが良く分かります。また、日本語指導員の配置（P10）や障害のある児童・生徒への支援（P20）等、特別なニーズをふまえて「誰ひとり取り残さない」ための努力がされている点も重要と考えます。さらに、児童・生徒の学習を支える教職員の研修（P22, 24, 31, 33）が活発に行われていることも評価できます。ただし、この点については教職員にとって過重な負担にならないよう十分に配慮されることを求めます。

II 豊かな心の育成と人権意識の高揚

学校教育・社会教育を問わず人権教育が積極的に行われており、児童・生徒、保護者、教員・職員、地域住民等が人権意識を高めるための学習に広く取り組んでいることが分かります。さらには「人権についての教育」に留まらず、視覚障害者を対象とするパソコン講座（P48）や子育て中の親を対象とする保育付きの講座（P67）、特別な教育的配慮が必要な児童生徒向けの講座の試行（P68）等、学習する権利の実現へ取り組んでいる点は極めて重要と考えます。人権教育は持続可能な社会の実現に不可欠な要素ですので、今後も積極的に取り組まれることを期待します。

III 健やかな躰（からだ）の育成

給食を通じた食育（P8）やスポーツを通じた健康増進（P62, 63）等、学校教育・社会教育の各領域で真摯に取り組まれていることが分かります。いずれもコロナ禍での制約を受けたと拝察しますが、その中でも状況に応じて着実に事業が行われていることを高く評価します。

IV 家庭・地域の教育力の向上

PTA家庭教育講演会（P35）や「親の学習」講座（P36）、幼児・家庭教育セミナー（P67）等を通して多くの子育て親が学ぶ機会を得られていることが分かります。また、学校運営協議会／コミュニティ・スクール（P31）の取り組みが充実しつつあります。この点については「地域が学校を支援する」に留まらず、「学校を拠点に地域を活性化する」方向性が探られることを期待します。

V 生涯にわたる学びとスポーツの支援

多様な学習ニーズに応える講座（P68）やスポーツ団体の支援（P63）等により、公民館（P69）等の社会教育・体育施設を拠点に多くの市民が積極的に生涯学習・スポーツに取り組んでいることが分かります。一方で、全体としてコロナ禍で落ち込んでいた施設利用者数や受講者数の回復が課題になっており、そのために学習情報のさらなる発信・周知が目指されています（P42, 47）。こうした努力が重要であることはもちろんですが、コロナ禍を通して人びとのライフスタイルや価値観が変化するなかで学習ニーズはさらに多様化しています。そのため、従来型の学習機会の提供に留まらない新たな学習機会の創造に期待します。

VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

この分野でもコロナ禍による制約が依然としてありますが、その中でも真摯に努力されていることが分かります。特に地域の祭礼等における民族芸能の伝承活動が開催されないなかで、団体の活動意欲維持のために交付金を継続したこと（P56）は重要と考えます。交付金の使途を明確にしておくことは前提ですが、厳しい社会・経済状況のなかで一般的に軽視されがちな文化活動を大切にす姿勢が、今後も継続されることを期待します。

令和5年度 点検評価報告書
編集・発行 桶川市教育委員会

令和5年8月発行
〒363-8501 埼玉県桶川市泉一丁目3番28号
電話：048-786-3211（代）
F A X：048-786-5043
E-Mail：kyoikusomu@city.okegawa.lg.jp
